

平成 27 年度
足立区桑袋ビオトープ公園解説活動報告書

(株) 自然教育研究センター

目 次

I. 平成 27 年度の活動

長期目標	1
中期目標	2
1) 平成 27 年度の重点的な取り組み	3
2) 平成 27 年度解説業務の動向と分析	4
3) 入館者数と対応者数の動向	9
①入館者数と対応者数の推移	9
4) インタープリテーション業務	10
①インタープリテーションの方針	10
②具体的なインタープリテーション活動	10
③インフォメーション、レンジャートーク	11
④展示物の管理	12
⑤教材開発（ワークシート、スライドなど）	15
⑥自然のあそび屋台、その他のプログラム、導入型及び発展型プログラム	16
⑦特別企画展示「みんなで作るビオトープ 生き物写真コレクション」開催（7/22～8/30）	29
⑧団体対応	30
5) 環境管理業務	35
①ビオトープの基本概念	35
②当公園における環境管理の考え方	36
③実際の活動	37
6) 区民協働型運営の展開	42
①区民協働型運営の概要	42
②公園管理ボランティアの活動とその成果	43
③桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー	46
④野外解説ボランティアの活動とその成果	47
⑤ビオトープ公園サポーター制度	48
⑥提案型ボランティア制度	49
⑦飛び込み型環境管理ボランティア	50
7) 広報活動および情報収集	51
①新聞・雑誌・TV・HPなどメディアへの掲載	51
②ホームページ	53
③園外でのPR活動	54
④区庁舎アトリウムでのポスター掲示	55
⑤印刷物による情報発信（ニュースレター、ポスター、チラシ）	55
⑥地域、区内関連施設との連携事業	56
⑦入館者モニタリング（入館者アンケート結果）	57

長期目標

「桑袋ビオトープ公園を拠点とした持続可能な地域づくり」

公園の生物多様性について、区民が主体性をもって学び守る公園にします。そのことを通じて、公園内だけではなく、その地域全体が、自然と共生する持続可能な環境になることを目指します。

① 区民が育てる公園、公園と育つ地域と人

ビオトープ公園で育った公園ボランティアや子どもなどが、さまざまな地域の緑地保全活動の担い手になっています。

② 子どもから高齢者までの学びと充実、安らぎの場

公園内では、地域住民の目が行き届き、子どもから高齢者までの誰もが安心して、遊び、学ぶことができます。

③ 足立の生態系を守る情報拠点

地域の生物多様性保全に関わるノウハウや情報が領域を超えて集積・発信されています。

④ 全国区で有名な公園

公園での取り組みが広域で評価されて、ビオトープ公園が足立区民の誇りになっています。

中期目標

「多様な区民協働形態で実現する 積極的に活用される都市型ビオトープの管理運営」

長期目標を実現するために、各業務に3年をめぐとした中期的な目標を立てて遂行していきます。現在の中期目標は平成25年度に設定し、目標年度を平成27年度に定めます。

① いつでも自然の魅力を体験できる集客力のある自然体験の場づくり

魅力的な自然体験プログラムを数多く実施することで、区民が当公園に足を運ぶきっかけにします。イベントなどで自然に触れ、地域の自然を守りたいと感じてもらえる機会を多く創出します。

② 都市型ビオトープの先駆的管理方法の検討と推進

ビオトープの管理を体験できるプログラムを多く用意し、都市の中でのビオトープ管理の必要性を区民に伝えます。また、新しく取り組む環境管理の手法も区民との協働で進めます。

③ 次世代にまでつながる区民協働運営と、地域関連施設・団体との連携の強化

対象年齢、内容、頻度などが異なる様々な区民協働活動を用意することで、気軽に参加したい人から、しっかり公園に関わりたい人まで、多くの区民が関わることのできる仕組みを作ります。

④ 新たな広報手段の開拓と公園の魅力を効率的に伝える広報

イベント情報や自然の見所情報など、入園のきっかけとなるような情報が区民に効率的に届くように、これまでの広報手段だけでなく、新しい広報媒体も積極的に使いながら広報活動を行います。

⑤ 教育訓練の徹底によるリスクマネジメントの実践

様々な区民が公園に関わるようになったときに、安心して園内での活動が行えるように、日常的なリスクマネジメントと解説員やボランティアへの安全教育を行います。

1) 平成 27 年度の重点的な取り組み

① 沈水植物の定着を目指した複合的取り組みの推進

開園当初のため池には、スターティングプランツとして沈水植物が植栽されましたが、ため池の水質や生物による捕食圧などにより、数年で消滅してしまいました。沈水植物は水生生物の産卵場や隠れ場所にもなるため、定着することで水辺の生態系が豊かになることが期待できます。

27 年度は、沈水植物をため池に定着させることを目標とした取り組みをすすめていきます。具体的には、新規提案型ボランティアによるヘドロの発生原因となるため池の落ち葉除去と、綾瀬川と同一水系内に自生する、導入候補となり得る沈水植物の情報収集を行います。

② 地域関連施設・団体との連携の強化

これまで桑袋ビオトープ公園では、近隣保育園への年間自然体験プログラムの提供や、大学生の教員実習の受け入れなど、地域施設の環境教育の場としての機能を果たしてきました。

27 年度は、当園が個別に対応していたこれらの施設同士を結びつけ、大学生の教員実習として保育園の自然体験プログラムを実施するなど、施設と連携した環境教育の検討を行います。

また、これまで連携対象としてはほとんど実績のない地域企業との連携を進めるために、企業の CSR 活動を受け入れる仕組みの検討を行います。

③ ホームページ内でのフェイスブックページの開設

ホームページのコンテンツやレイアウトを見直し、より多くの人にわかりやすく見やすくなるようページのリニューアルをします。また、広報効果の高いと思われる SNS のフェイスブックページの開設を行います。

2) 平成 27 年度解説業務の動向と分析

1. 入館者と対応者数

表－1 平成 27 年度入館者数と対応者数

平成27年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	大人	1080	2205	1941	1572	1781	1964	1446	1346	542	461	685	918	
	子ども	1412	2553	1955	2059	2852	3045	2671	2399	574	777	810	1272	
	計	2492	4758	3896	3631	4633	5009	4117	3745	1116	1238	1495	2190	38320
対応者数	大人	865	2166	1990	1084	1674	1777	1248	1171	553	452	498	852	
	子ども	1430	2651	2046	1654	2805	2683	2198	1982	559	727	808	1637	
	計	2295	4817	4036	2738	4479	4460	3446	3153	1112	1179	1306	2489	35510
	入館者前年比	105%	129%	133%	114%	157%	305%	201%	101%	97%	95%	96%	99%	136%

今年度の延べ入館者数は 38,320 人でした。弊社が目標としていた 35,500 人／年に対しては約 107% の達成率で、目標を上回る入館者数となりました。

増加の要因としては生き物とり体験やクラフトなど多様なプログラムを用意した事が考えられます。しかし生き物が少なくなる冬季には入館者が落ち込みました。

来年度は冬季にも楽しめるプログラムを検討し実施していく必要があります。

2. インタープリテーション業務

① インフォメーション、レンジャートーク

インフォメーションは、年間で延べ 3,800 人以上に行いました。レンジャートークは年間で延べ 14,000 人以上に行うことができました。

要因としては今年度は館外での入園者対応が多かったことや、あだち広報でのオオガハス情報掲載が対応者増につながったと考えられます。

来年度も積極的に入園者、入館者に対応を行っていきます。

表－2 インフォメーション、レンジャートークの実施状況

月	インフォメーション			レンジャートーク		
	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計
4	94	135	229	601	622	1223
5	210	237	447	1062	900	1962
6	312	163	475	911	705	1616
7	151	217	368	666	641	1307
8	325	457	782	995	1378	2373
9	141	185	326	665	723	1388
10	144	206	350	751	842	1593
11	107	131	238	409	358	767
12	56	63	119	295	194	489
1	37	57	94	304	242	546
2	52	80	132	198	204	402
3	118	145	263	536	769	1305
合計	1747	2076	3823	7393	7578	14971

② 自然のあそび屋台、その他のプログラム、導入型および発展型プログラム

表－3 当日募集型プログラムの実施状況

	回数	参加者数			平均参加者数	定員	参加率	
		大人	子ども	計				
自然のあそび屋台	自然のあそび屋台	33	136	292	428	13.0	なし	-
	水辺のあそび屋台	18	19	50	69	3.8	各回15人	26%
その他のプログラム	1335	1767	6819	8586	6.4	なし	-	
導入型プログラム	18	134	196	330	18.3	各回20人	92%	
合計	1404	2056	7357	9413	-	-	-	

表-4 事前募集型プログラムの実施状況

	回数	応募者数			応募率(%)	当選者数			参加者数			定員	参加率(%)
		大人	子ども	計		大人	子ども	計	大人	子ども	計		
発展型プログラム	11	200	201	401	146%	124	131	255	103	104	207	274	76%

今年度は、自然のあそび屋台を 51 回（うち水辺のあそび屋台 12 回）、その他のプログラムを 1,335 回、導入型プログラムを 18 回、発展型プログラムを 11 回実施しました。導入型プログラム、発展型プログラム、その他プログラムについては例年より多い参加者数、応募者数となりました。自然のあそび屋台は実施回数は増えたものの参加人数はほぼ平年並みとなりました。

増加要因として今年度は魅力的なプログラムを打ち出せた事が考えられます。一方で自然のあそび屋台についてはプログラム自体の魅力の不足が考えられます。

来年度も魅力的なプログラムづくりをしていくとともに、自然のあそび屋台では自分で好きなプログラムを選択できるなど、あそび屋台の仕組みを見直す事で参加者増を目指します。

③団体対応

今年度の団体対応数は 111 団体 6,731 人と昨年度よりも増加しました。

増加要因として昨年度は中止となったあだち自然体験デーを今年度は実施したことや、デング熱の影響が今年度はなかったことなどが考えられます。

また、昨年度通年対応をした保育園や小学校とは年度初めに昨年度の振り返りを実施し、今年度も各団体に合わせた通年対応をしました。

今後は出張授業集を充実させるなど出張授業にも力を入れるとともに、その他の団体利用に関しては、今年度通りの対応を実施します。

表-5 団体対応の実施状況

区分	団体数	大人	子ども	計
保育園・幼稚園	37	124	1040	1164
小学校(園内対応)	9	48	617	665
小学校(出張授業)	2	4	94	98
中学校(園内対応)	2	7	20	27
中学校(職場体験)	11	0	35	35
高校	0	0	0	0
大学	3	30	0	30
介護施設	25	344	33	377
養護学校	1	10	0	10
自治体視察	2	34	0	34
活動団体	8	76	22	98
外国団体	0	0	0	0
出張PR	10	1976	2199	4175
その他	1	9	9	18
計	111	2662	4069	6731

3. 環境管理業務

①環境管理活動

表－6 平成27年度 環境管理作業実施工程表

ゾーン名	管理手法	単位 作業 日数 (日)	作業工程の日安(回)												計	総 作業 日数 (日)	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
草地A1	草地A1低茎1	カマ+芝刈機	0.5	1	2	1	1		1			1				7	3.5
	草地A1低茎2		1	1	2	2			1	1						8	4.0
	草地A1園路	芝刈機	0.5	2	2	2	2	1	1	1	1	1			2	15	7.5
	草地A1中茎1		刈払機	1.0						2						2	2.0
	草地A1中茎2						1						1			2	2.0
	草地A1中茎3			1	1							1		1	4	4.0	
草地A2	草地A2(集会所1)	芝刈機	0.5		1										1	0.5	
	草地A2(集会所2)		1	1	2	1	1	1	1						8	4.0	
公園ゾーン	公園ゾーン(IBA-2)	芝刈機	0.5		1	1	1		2						5	2.5	
草地B	草地B1(4年サイクル)	刈払機+ノコギリ	1.0												0	0.0	
	草地B2(4年サイクル)													1	1	1.0	
	草地B3(4年サイクル)														0	0.0	
	草地B4(4年サイクル)														0	0.0	
	草地B5(年1管理)	刈払機+ノコギリ	1.0											1	1	1.0	
林地A	林地A1	カマ、刈払機	1.0			1	2					1			4	4.0	
	林地A2					2									2	2.0	
林地B	林地B1	カマ、刈払機	1.0										1		1	1.0	
	林地B2											1		1	1.0		
	林地B3											1		1	1.0		
疎林	疎林1	カマ、刈払機	1.0		1							1			2	2.0	
	疎林2					2									2	2.0	
	疎林3				1										1	1.0	
水辺(ため池)	水辺(ため池 水域)	カマ	—	1	1	2	2				2	1	1	1	11	—	
	水辺(ため池陸域1)		0	—													
	水辺(ため池陸域2)		0	—													
水辺(ハス田)	水辺(ハス田 水域)	カマ	—		1			2	1	2					6	—	
	水辺(ハス田陸域1)		1.0			1	1					1			3	3.0	
	水辺(ハス田陸域2)				1	1			1			2			5	5.0	
園路	園路	芝刈機(カマ)	0.5	1		1	1				1				4	2.0	
	園路(分離帯)		1		1	1	1	1							5	2.5	
	園路(パツファ)	刈払機	0.5	1		2				1					4	2.0	
	園路(林内)					1	1								2	1.0	
	園路(ハス田)				2	1	2	1	1						7	3.5	
外周林	外周林1	カマ、刈払機	1.0				1								1	1.0	
	外周林2		平成27年度よりシルバー人材センターにより管理												0	—	
	外周林3				1		1								2	2.0	
	外周林4														0	0.0	
	外周林5														0	0.0	
	外周林6											1			1	1.0	
浄化施設北側斜面	浄化施設北側斜面1	カマ	1.0		1				1						2	2.0	
	浄化施設北側斜面2				1		1				1	1			4	4.0	
	浄化施設北側斜面3				1			1							2	2.0	
その他	その他(駐車場横植え込み)	カマ	0.5	シルバー人材センターにより管理												0	0.0
	その他(集会場側門植え込み)		0	0.0													
77.0																	

環境管理作業については、ゾーンごとの草刈り作業のスケジュールを立て、平成27年度初めに「作業行程表」を作成しました。これに基づいて、毎月環境管理計画の見直しを行いながら、作業を行いました。

今年度は雨天等による作業の延期が続き計画通りに作業実施が出来ない事がありました。その結果作業が困難になる位まで草丈が伸びてしまう事がありました。

来年度は植生管理作業延期の振替日はなるべく早く行う事で当園の多様な環境を保持していきたいと考えています。

②外来種の駆除

今年度の外来種の捕獲数はアメリカザリガニが 3,034 匹、ウシガエル幼体が 812 匹、ウシガエル成体が 151 匹、コイが 1 匹となりました。

昨年度よりも効果的な駆除が行えたことで捕獲数が増加したと考えられます。

来年度も継続して駆除活動を行うとともに、ヒメダカや外来植物などの駆除方法の確立や駆除の実施を新たに行っていきます。

表-7 外来種の駆除数

種名	駆除数
アメリカザリガニ	3,034
ウシガエル(幼体)	812
ウシガエル(成体)	151
コイ	1

③モニタリング調査

今年度も動植物相の調査を隔月、水質調査・相対照度と気温調査を月に1度実施しました。また、特別企画展「ビオトープ生き物写真コレクション」実施後は連携イベントの生き物との影響で特に昆虫類が減少していないか等を重点的に調査しました。

今年度の定例のモニタリング調査では大きな環境の変化は見られなかったものの、新たにオオタカ等の貴重な生物が見られました。

来年度特に水質に関して詳細な分析を行うため、調査項目と頻度を増やし、調査を行います。

表-8 平成27年度モニタリング調査回数

調査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
ビオトープ定点写真		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
植物相	木本								1					1	
	草本		1		1		1		1		1		1	6	
	草本群落		1			1			1			1		4	
動物相	鳥類		1		1		1		1		1		1	6	
	昆虫		1		1		1		1		1		1	6	
	哺乳類	日常業務内で適宜実施													-
	魚類				1										1
	両生類	日常業務内で適宜実施													-
	爬虫類	日常業務内で適宜実施													-
	その他	日常業務内で適宜実施													-
生物歴調査(100選)		日常業務内で適宜実施													-
相対照度と気温		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
水質	透視度	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	溶存酸素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	pH	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	水温	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	COD	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	全窒素			1		1	1		1				1	5	
	全リン			1		1	1		1				1	5	
周辺緑地	大鷲神社							1						1	
周辺水域	綾瀬、伝右、毛長							1						1	

4. 区民協働

今年度は新たに提案型ボランティア「アクアドリームの会」が立ち上がり、ため池の落ち葉やヘドロの除去を実施しました。

新規で開始した活動のみならず継続して積極的に活動を実施できました。

また、今年度新たにCSR活動受け入れの仕組みを作りましたが申込みはありませんでした。

来年度は既存のボランティアは同様に活動を行っていくとともに、CSR活動受け入れの周知を行っていきます。

子どものボランティアであるビオレンジャーは今年度の新規登録者数は89人と昨年度よりも減少しました。原因として対象者への声かけが不十分であった事が考えられます。

来年度はビオレンジャー候補生チケットや登録への声掛けを強化するとともに、ビオレンジャープログラムの充実を目指します。

5. 広報活動および情報収集

今年度はあだち広報等の地域の広報物や、新聞を中心に当園の情報発信を行いました。また、ニュースレターを年12回発行し、園内を始め足立区内の公共施設や地域の方が利用する商業施設で配布を行いました。

またホームページをリニューアルし8月から閲覧者数等のカウントを開始しました。

入館者やプログラム参加者から広報物や発行物・ホームページを見て入園したという声があり、効果があったと考えられます。反面、生き物が減る冬季にホームページの閲覧者数は減少しました。

来年度は冬の当園の魅力の発信に、これまで以上に力をいれたいと考えています。

表-9 区民協働実施状況

		回数	参加人数
公園管理	4期生	26	104
ボランティア	5期生	26	58
野外解説ボランティア		44	82
公園サポーター		9	20
提案型	にきの会	15	44
ボランティア	アクアドリームの会	16	52
飛び込み型環境管理		225	3949
CSR		0	0
計		361	4309

表-10 ビオレンジャー登録数

レベル	27年度
グリーン	949
シルバー	59
ゴールド	21
プラチナ	7
小計	1036
候補生	866
総計	1902

表-11 広報活動実施状況

	広報媒体	発行、掲載、更新数
メディアへの掲載	あだち広報	毎月2回
	花畑地域学習センター「フレンズ」	毎月1回
	足立区公式フェイスブック	3回
	足立朝日 情報スクランブル	7回
	その他	7回
発行物	ニュースレター	年12回
HP	桑袋ナウ	週1回
	イベント情報	月1

表-12 HPアクセス数推移

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
セッション	/	/	/	/	1,326	1,237	1,177	1,308	1,046	846	694	912	8,546
閲覧者数	/	/	/	/	852	804	746	881	733	573	463	569	5,621
ページビュー	/	/	/	/	5,557	4,306	4,280	4,780	2,861	2,538	2,532	2,804	29,658
ページ/セッション	/	/	/	/	4.19	3.48	3.64	3.65	2.74	3.00	3.65	3.07	3.56
平均セッション時間	/	/	/	/	0:02:46	0:02:00	0:02:11	0:02:04	0:01:46	0:02:03	0:02:11	0:01:56	0:02:07
直帰率	/	/	/	/	48.72%	48.83%	47.24%	57.72%	59.85%	56.56%	45.10%	49.63%	51.71%
新規セッション率	/	/	/	/	63.12%	60.15%	56.58%	61.62%	62.52%	59.46%	55.33%	53.84%	59.08%

3) 入館者数と対応者数の動向

① 入館者数と対応者数の推移

今年度の延べ入館者数は38,320人でした(表-13)。弊社が目標としていた35,500人/年に対しては約107%の達成率で、目標を上回る入館者数となりました。

過去3年の中で比較すると、8月、9月、10月に大幅な増加が見られました。(表-13)7月から8月にかけて実施した特別企画展示「みんなで作るビオトープ生き物写真コレクション」の中で、公園内での生き物とりプログラムをPRした結果、生き物とり目当ての方が継続して入館した事が入館者数増につながったと考えられます。反対に生き物とりが出来なくなる冬季は入館者数が減少しました。

来年度は入園者を館内に誘導できるようなしかけや展示の作成、生き物とり以外でも楽しめるようなプログラムを検討していく必要があります。

表-13 入館者数および対応者数の月別推移

平成27年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	大人	1080	2205	1941	1572	1781	1964	1446	1346	542	461	685	918	
	子ども	1412	2553	1955	2059	2852	3045	2671	2399	574	777	810	1272	
	計	2492	4758	3896	3631	4633	5009	4117	3745	1116	1238	1495	2190	38320
対応者数	大人	865	2166	1990	1084	1674	1777	1248	1171	553	452	498	852	
	子ども	1430	2651	2046	1654	2805	2683	2198	1982	559	727	808	1637	
	計	2295	4817	4036	2738	4479	4460	3446	3153	1112	1179	1306	2489	35510
	入館者前年比	105%	129%	133%	114%	157%	305%	201%	101%	97%	95%	96%	99%	136%
平成26年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	大人	1066	1793	1275	1289	1282	752	789	1308	561	578	672	972	
	子ども	1303	1906	1646	1890	1678	889	1258	2393	587	724	887	1246	
	計	2369	3699	2921	3179	2960	1641	2047	3701	1148	1302	1559	2218	28744
対応者数	大人	955	1601	1068	1078	1018	633	673	1093	471	442	561	880	
	子ども	1292	1845	1335	1813	1655	1282	1207	2227	520	712	810	1360	
	計	2247	3446	2403	2891	2673	1915	1880	3320	991	1154	1371	2240	26531
	入館者前年比	141%	102%	46%	79%	107%	43%	87%	97%	68%	78%	99%	123%	89%
平成25年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	大人	545	1521	2399	1363	1037	1335	770	1235	594	542	474	637	
	子ども	1141	2106	3958	2663	1722	2457	1589	2575	1100	1119	1100	1165	
	計	1686	3627	6357	4026	2759	3792	2359	3810	1694	1661	1574	1802	35147
対応者数	大人	617	1360	1964	1006	838	987	613	848	442	487	360	619	
	子ども	1225	1899	2972	1910	1685	1952	1229	1791	1077	899	846	1385	
	計	1842	3259	4936	2916	2523	2939	1842	2639	1519	1386	1206	2004	29011

表-14 対応者数の詳細

月	対応者数			インフォメーション			レンジャートーク			プログラム				団体利用			区民協働型事業			
	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計	回数	大人	子ども	合計	回数	大人	子ども	合計	回数	大人	合計
4	865	1430	2295	94	135	229	601	622	1223	143	137	673	810	0	0	0	0	11	33	33
5	2166	2651	4817	210	237	447	1062	900	1962	143	367	973	1340	10	495	541	1036	12	32	32
6	1990	2046	4036	312	163	475	911	705	1616	109	236	725	961	10	497	453	950	10	34	34
7	1084	1654	2738	151	217	368	666	641	1307	139	224	761	985	3	9	35	44	11	34	34
8	1674	2805	4479	325	457	782	995	1378	2373	176	257	791	1048	5	70	179	249	12	27	27
9	1777	2683	4460	141	185	326	665	723	1388	114	249	812	1061	9	699	963	1662	11	23	23
10	1248	2198	3446	144	206	350	751	842	1593	122	237	776	1013	15	90	374	464	11	26	26
11	1171	1982	3153	107	131	238	409	358	767	98	137	552	689	26	495	941	1436	10	23	23
12	553	559	1112	56	63	119	295	194	489	68	82	202	284	12	86	100	186	11	34	34
1	452	727	1179	37	57	94	304	242	546	65	43	220	263	11	34	208	242	12	34	34
2	498	808	1306	52	80	132	198	204	402	81	50	278	328	6	164	246	410	14	34	34
3	852	1637	2489	118	145	263	536	769	1305	157	144	694	838	4	23	29	52	11	31	31
合計	14330	21180	35510	1747	2076	3823	7393	7578	14971	1415	2163	7457	9620	111	2662	4069	6731	136	365	365

4) インタープリテーション業務

① インタープリテーションの方針

当公園でのインタープリテーション（自然解説）は、「ねらい」を明確にした上で、入館者の関心に訴えかける方法（プログラム）が用意される必要があります。そしてプログラムは断片的にならないようにし、環境教育の全体像における位置づけ（ポジショニング）が意識されなければなりません。

当公園は、近隣住民による日常的な利用も多くあり、自然環境や生き物について関心の度合いも様々で、意識レベルに応じたプログラムが求められます。また小学校等の校外学習などによる団体向けの対応も求められます。インタープリテーション（解説）業務を中心とした桑袋ビオトープ公園での環境教育活動は図-1のようになり、それに応じて以下のような具体的なインタープリテーションを用意しています。

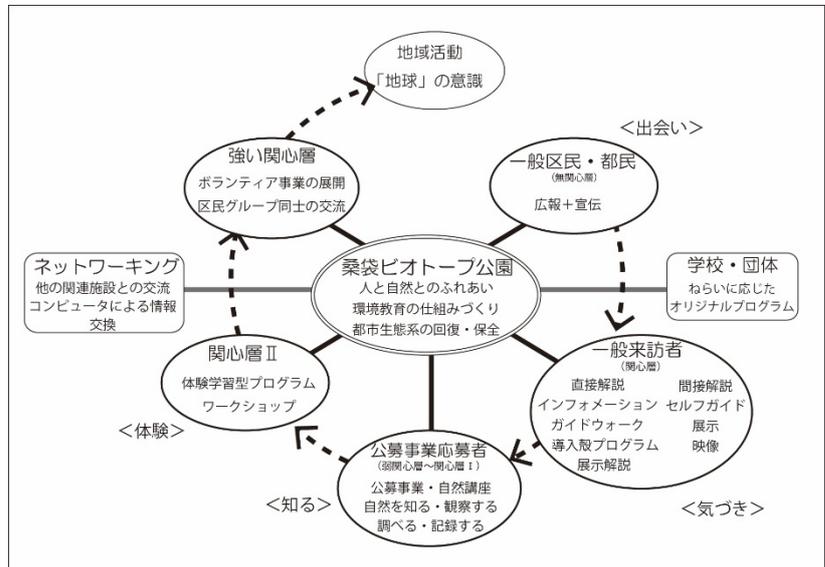


図-1 当公園における環境教育の展開

② 具体的なインタープリテーション活動

当公園のインタープリテーションには直接的解説と間接的解説があります。前者は解説員が直接対応することで効果的に公園の「おもい」を伝えることができます。後者は直接的解説と比べると効果は低いものの、多くの人に対応できること、時間を限定せずに入館者が利用できるという利点があります。

直接的なインタープリテーション

- ・ インフォメーション
- ・ レンジャートーク
- ・ プログラム（自然のあそび屋台、その他のプログラム、導入型、発展型など）
- ・ 団体利用
- ・ 区民協働型事業（ボランティア養成講座、ビオレンジャーなど）

間接的なインタープリテーション

- ・ 展示（館内、館外、特別企画展示）
- ・ 図書コーナー
- ・ 教材開発（ワークシート、スライドなど）
- ・ 広報活動（ニュースレター、ポスター、チラシ、HP、メディアへの情報発信）

③ インフォメーション、レンジャートーク

「インフォメーション」 入館者のニーズに応じて、施設やイベントの案内を行う。単なる情報提供に終わらず、自然の楽しみ方や自然への気づきにつながるように心がける。

「レンジャートーク」 入館者の関心に応じて、展示や季節の自然などを通じて解説を行う。実際に野外でも体験したいという気持ちにつながるように心がける。

当公園での入館者へのインフォメーション、レンジャートークは、入館者のニーズを把握するとともに、インタープリテーション活動をより効果的に実践するために大切な業務です。実施状況を表-15及び表-16に示します。

インフォメーションは、年間で延べ3,800人以上に行いました。イベント情報や特別企画展示を中心に案内をしました。

レンジャートークは年間で延べ14,000人以上に行うことができました。今年度はあだち広報の特集記事としてオオガハスを取り上げられたことで、5月後半から開花時期にかけてオオガハスを目当てに入園される方が多く、レンジャートークの対応を行う機会も多くありました。

上記の結果から、身近な生き物への好奇心や季節を彩る自然の景観に関心を持つ方が多く入園する事がわかります。今後も入館者と直接触れ合う事で当公園へのニーズを把握しながら、園内の見どころ、ビオトープや生物多様性などを体験や観察を通じた解説をしていきたいと考えています。

表-15 インフォメーション、レンジャートークの実施状況

月	インフォメーション			レンジャートーク		
	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計
4	94	135	229	601	622	1223
5	210	237	447	1062	900	1962
6	312	163	475	911	705	1616
7	151	217	368	666	641	1307
8	325	457	782	995	1378	2373
9	141	185	326	665	723	1388
10	144	206	350	751	842	1593
11	107	131	238	409	358	767
12	56	63	119	295	194	489
1	37	57	94	304	242	546
2	52	80	132	198	204	402
3	118	145	263	536	769	1305
合計	1747	2076	3823	7393	7578	14971
平成26年度	1125	1491	2616	5642	5940	11582

表-16 平成27年度の主なレンジャートーク一覧

4月	5月	6月	7月	8月	9月
・タンポポについて ・アオダイショウについて ・ヨモギについて ・園内見られるチョウ	・テントウムシについて ・ウシガエルについて ・キジバトの卵について ・ダンゴムシについて	・アカガシラサギについて ・オオガハスの開花 ・アメリカザリガニの生態 ・カワセミについて	・オオガハスの開花 ・カマキリについて ・トンボについて ・トノサマバッタについて	・セミの羽化について ・ウシガエルについて ・綾瀬川の水質 ・綾瀬川の生き物	・ショウリョウバッタについて ・園内で見られるカマキリ ・コオロギについて ・園内で見られるトンボ類
10月	11月	12月	1月	2月	3月
・イチモンジチョウについて ・スズメガの幼虫 ・園内で見られるドングリ ・ハス田の管理	・冬鳥の飛来 ・オナモミについて ・カマキリの卵について ・ゴマダラチョウの幼虫	・コバネイナゴについて ・虫の冬越しについて ・ウメの開花 ・自然素材を使ったクラフト	・ホシハジロの飛来 ・クビキリギスについて ・ミノムシについて ・ヒメダカについて	・ジョウビタキについて ・ロゼットについて ・園内で見られる冬鳥 ・ため池で見られる生き物	・スギナについて ・園内の野草について ・アカメヤナギについて ・ニホンカナヘビについて

④ 展示物の管理

(1) 館内展示

展示はインタープリテーションとして以下の目標のもとに作成しました。

①情報の発信と受信の機能を持つ展示

野外に出る前の必要な情報、自然と親しむための工夫を提供するとともに、利用者からの情報も展示に活用します。

②きっかけを与える展示

知識のみを伝えるだけではなく、自然の見方やとらえ方、自然との接し方など、気づき、きっかけを提供することを目指します。

③野外へと誘導する展示

野外での自然体験に誘導するための導入、あるいはまとめとして位置づけます。つまり、インタープリターによるガイドウォーク、野外展示や野外解説板と連携しやすい展示とします。

④当公園の利用方法を知らせる展示

入園者に、当公園がどういった公園なのか、どのような活動ができるのか、などの利用方法を知って頂くことを目的とします。

入館者に公園内の生き物や自然の魅力を伝えられるように、新規展示の作成を行いました。例として生体展示がありますが、生体展示は多くの入館者が興味を示され、生体そのものだけではなく、園内の環境や生き物同士のつながりを解説する機会が多くありました。

当公園の入館者の特徴としてリピーターが多いこともあり、今後も新規展示を作成し、年間を通して頻繁に展示の入れ替えをすることで展示物のマンネリ化を防ぐとともに、全体として統一感のある展示空間を構成していくことが必要だと考えています。

新規展示

常設展示「ビオトープ公園の生き物紹介」

特別企画展示の終了と合わせて9月1日より常設展示を設置しました。草地・林地・水辺といった園内の環境ごとに、そこで見られる生き物をパネルや生体で展示しました。また、それぞれの環境で行っている生き物を呼び込むための管理についてもパネルで紹介しました。園内の代表的な生き物を紹介でき、入園者の方に楽しんで頂けた印象を受けました。

生体展示

園内で見られる生き物を、環境ごとに展示しました。
草地の水槽ではその季節に見られるバッタなどの昆虫、林地の水槽ではアオダイショウなどの爬虫類、水辺の水槽ではモツゴなどの魚類を適宜更新しながら飼育し、展示しました。今年度は新たに園内で増えているベンケイガニの展示も加え、ビオトープ公園のため池が汽水域であることについて解説するきっかけとなりました。

季節展示「あっ！カワセミだ！」

入園者に人気があり、園内でよく見られるカワセミの生態について解説をした展示を出しました。加えて実際に園内で撮影したカワセミの写真を入館者から募集し、コルクボードに展示しました。入館者からは、「この公園にカワセミが来るんですね」「カワセミは何時頃見られますか？」という声がよく聞かれました。カワセミが当園に飛来する事を知り、興味を持ってもらうきっかけとなりました。

生き物パズル「冬越しする虫」

冬越しをする虫をクイズ形式に解説したパズルを展示しました。スタッフにクイズの答えを聞きに来た時に、冬越しの虫について解説すると「冬にも意外とこんなに虫がいるんだ」という驚きの声がよく聞かれました。そして実際に園内に虫を探しに行くきっかけになりました。

図書コーナー

当公園の図書コーナーでは以下のテーマを中心として図書を収蔵しています。

- ・ 足立区内の河川（特に、綾瀬川、伝右川、毛長川）、河川の浄化
- ・ ビオトープ、自然環境復元
- ・ 外来種（帰化種を含める）
- ・ 植物、昆虫、魚類などの生き物

今年度は小さい子ども向けに生き物についてわかりやすく解説された絵本や、入館者が生き物について自分で調べやすいように、野鳥や植物、プランクトン等の多様な図鑑を増やしました。また、図書の収蔵数が増えてきたことで本棚に出せる本の量が制限されてきたため、季節ごとに配架する本を変更しました。

(2) 野外展示

野外展示については、以下のような機能を考え、設置しました。

①自然解説に関する展示

- ・自然の見方、楽しみ方の紹介
- ・身近な自然の利用方法や保全方法の提案

②施設の利用に関する展示

- ・あやせ川清流館や浄化施設、トイレなど各施設の周知と誘導
- ・利用方法の周知（禁止事項やルールなど）

入園者の方への様々な情報提供の手段の一つとして、野外展示を設置しました。野外展示は公園を楽しんでもらうためのきっかけや、あやせ川清流館までの誘導として有効に活用できるものですが、展示物ばかりになると園内の景観が損なわれるため、設置する際は展示物全体の統一感を出すようにしました。

これにより、区民と共に育てていく公園であること、ボランティア活動だけではなくイベントなど様々な形で公園の自然管理に関われることを入園者に伝えられる効果も見込めます。

シジュウカラの巣箱

園内に4か所設置しているシジュウカラの巣箱ですが、設置から1年が経過したため、巣箱の利用状況を確認するとともに、巣箱内の掃除を行い、壊れているものは修理しました。今年度は残念ながら1か所もシジュウカラが利用した形跡は見られませんでした。そのため巣箱を取り付ける向きや位置を再検討し、シジュウカラが利用しやすいようより一層配慮して取り付けを行いました。

野外解説版

今年度は常設の野外解説版を新規4基と、特別企画展示で野外解説版を9基設置しました。生き物が来るしかけのエコスタックや、開園から10年目の園内の環境変化についてその場で解説が見られる事で入園者にとってよりわかりやすく実感の持てる解説展示となりました。

⑤ 教材開発（ワークシート、スライドなど）

当公園で展開するプログラムにおいて、環境教育の効果を引き出すために、地域固有のメッセージをもった教材やテキストの開発が必要となります。また、身近な自然や生き物を考えるための標本や模型、映像ソフトなどは入園者へのインパクトも大きく、解説効果を高められると考えています。

(1) ワークシート、セルフガイド

ワークシートはプログラムや窓口対応の中で随時作成し、利用してきました。入館者のニーズや対象に応じて解説員が適切なワークシートを判断し提供しています。

セルフガイドは、季節に応じたものを常時パンフレットラックに並べており、持ち帰る入館者の姿も多く見られました。

(2) スライド

スライドは主に団体対応や導入型、発展型プログラムを行うなかで随時作成し、利用してきました。団体対応では、初めて公園に入園する方も多いため、主に公園の概要や浄化施設の説明、また園内で見られる生き物などの紹介をすることが多くなります。

開園当初に比べて樹木が生長するなど、自然の様子も変化してきました。そうした自然の経年変化をスライドで紹介すると、「こんなに変わったんだ」という驚きの声も聞かれました。

[今年度作成した主なスライド] 生物多様性・ビオトープをテーマにしたスライド

- ・プログラム：野草のカードケースづくり、水辺まるごと大調査、身近な外来種を食べよう、ため池のかい掘り体験、夜の水辺探検、探検！ため池ボートクルーズ、泥んこハス掘り体験、雑木林を楽しもう、ガマの葉でしめ縄飾りづくり、野鳥のストラップづくり、ビオトープ講座など
- ・団体対応：中川東小学校、栗島中学校、札幌市公園緑化協会など
- ・未就学児を対象：「バッタクイズ」「ドングリクイズ」「葉っぱクイズ」など

(3) レンタルグッズ

入園者が各々でも自然体験を楽しめるように、以下の物品の貸し出しを行いました。
ザリガニ調べ（釣り竿・バケツ・帽子）、ショウリョウバッタ大調査（虫かご・帽子・ストップウォッチ）、水辺の冬鳥ウォッチング（双眼鏡・帽子）、飼育生物のえさ探し（虫かご・帽子）。

⑥ 自然のあそび屋台、その他のプログラム、導入型及び発展型プログラム

①自然のあそび屋台

その日の自然素材でできる初心者向けの小規模な自然体験プログラムを屋外で野外解説ボランティアとともに実施。(当日募集)

②その他のプログラム

イベントのない日の入園者の要望に応じて、不定期の個人対応プログラムを実施。(館内で随時受け付け)

③導入型プログラム

自然の中で遊びたい、自然を体験したいという方に、気軽に参加できるプログラムを実施。(当日募集)

④発展型プログラム

自然に関心があって、もっと深く知りたい、じっくり観察したいという方に、より深い内容のプログラムを実施。(事前募集)

今年度は、自然のあそび屋台を 51 回（うち水辺のあそび屋台 18 回）、その他のプログラムを 1,335 回、導入型プログラムを 18 回、発展型プログラムを 11 回実施しました（表－17～18）。

プログラム実施中や実施後に得た感想、アンケート結果（図－5～6、表－24～25）から、参加された方は十分な満足と自然やビオトープへの理解を深められた様子が伺えます。プログラムの参加状況の特徴を見ると、導入型の参加率が 92%と昨年度（76%）よりも増加しました。発展型プログラムの応募率は 146%で昨年度（125%）を上回る方々に応募していただきました。（表－23）

表－17 平成 27 年度当日募集型プログラムの実施状況

	回数	参加者数			平均参加者数	定員	参加率	
		大人	子ども	計				
自然のあそび屋台	自然のあそび屋台	33	136	292	428	13.0	なし	-
	水辺のあそび屋台	18	19	50	69	3.8	各回15人	26%
その他のプログラム	1335	1767	6819	8586	6.4	なし	-	
導入型プログラム	18	134	196	330	18.3	各回20人	92%	
合計	1404	2056	7357	9413	-	-	-	

表－18 平成 27 年度事前募集型プログラムの実施状況

	回数	応募者数			応募率(%)	当選者数			参加者数			定員	参加率(%)
		大人	子ども	計		大人	子ども	計	大人	子ども	計		
発展型プログラム	11	200	201	401	146%	124	131	255	103	104	207	274	76%

(1) 自然のあそび屋台

3年目となる事業で、午後2時から30分間屋外に出展した屋台で季節の自然を利用した随時対応の自然体験プログラム、レンジャートークやインフォメーションを行いました。

昨年度から引き続き、今年度も野外解説ボランティアによって実施しました。全51回のプログラムは、原則ひと月に同じテーマが重ならないように実施しました。屋台の出展場所として、入園者の目に付きやすい観察デッキ周辺で行っていたため、入園者が「何かやっている」と気づきやすく、ザリガニ釣りなどの違う目的で入園した利用者にも声をかけて参加に結びつけることができました。

また、今年度は特別企画展示「みんなでつくろうビオトープ生き物写真コレクション」連携プログラムとして水辺のあそび屋台を実施しました。

今年度の自然のあそび屋台は実施回数は増えたものの参加人数はほぼ平年並みとなりました。この参加人数の減少要因としてはプログラム自体の魅力の不足が考えられます。

次年度も今年度同様に、野外解説ボランティアによる自然のあそび屋台の運営を行う予定ですが、参加者が自分で好きなプログラムを選択できるなど、あそび屋台の仕組みを見直す事で参加者増を目指します。

表-19 自然のあそび屋台参加状況（水辺のあそび屋台含む）

回数	日時	大人	子ども	計	回数	日時	大人	子ども	計
1	4月5日	0	3	3	30	9月20日	0	5	5
2	4月12日	14	9	23	31	9月21日	1	13	14
3	4月26日	8	18	26	32	9月22日	1	5	6
4	4月29日	8	17	25	33	9月27日	4	9	13
5	5月4日	2	13	15	34	10月11日	1	6	7
6	5月5日	11	15	26	35	10月12日	9	13	22
7	5月6日	9	7	16	36	10月25日	4	9	13
8	5月24日	8	10	18	37	11月1日	0	9	9
9	6月14日	10	14	24	38	11月3日	9	14	23
10	7月5日	1	3	4	39	11月15日	3	10	13
11	7月20日	0	7	7	40	11月23日	0	1	1
12	7月26日 (水辺)	0	3	3	41	12月23日	1	1	2
13		0	2	2	42	12月27日	2	6	8
14		2	5	7	43	1月11日	4	8	12
15	8月2日 (水辺)	0	2	2	44	1月17日	3	6	9
16		0	1	1	45	1月31日	2	11	13
17		2	5	7	46	2月11日	4	9	13
18	8月9日 (水辺)	0	1	1	47	2月14日	2	7	9
19		2	2	4	48	2月28日	4	8	12
20		2	3	5	49	3月13日	2	8	10
21	8月16日 (水辺)	1	1	2	50	3月21日	4	10	14
22		1	1	2	51	3月27日	5	8	13
23		1	4	5	合計 51回			155	342
24	8月23日 (水辺)	3	7	10	平成26年度 自然のあそび屋台実施実績				
25		3	5	8	実施回数		大人	子ども	計
26		2	3	5	33回		133	315	448
27	8月30日 (水辺)	0	1	1					
28		0	2	2					
29		0	2	2					

(2) その他のプログラム

その他のプログラムは、導入型・発展型プログラムと違い、当日に入園者の興味や関心から発展して実施するプログラムです。入園者の年齢や関心に合わせて適切なプログラムを実施でき、少人数で実施するため環境教育的効果が高いと思われます。また、普段は見られないその時その場でしか起こりえない自然現象を逃さずに捉えられることがフィールドをもつ当公園の魅力であり、リピーターにつながると考えます。

今年度のその他のプログラムは過去3年間で最高の実施回数と参加者数となり、比例して年間入館者も増加しました。今年度の特別企画展示「みんなで作るビオトープ生き物写真コレクション」で積極的に生き物とりプログラムを実施した結果、特別企画展示終了後も生き物とりを目当てにした入館者が増えた事が一因と考えられます。しかし冬季は見られる生き物が減少するため、その他のプログラムの実施数および入館者が減少しました。来年度は冬季に実施できる生き物とり以外の魅力的なプログラムづくりを検討していきます。

表-20 その他のプログラム実施回数および参加状況

月	回数	参加者数			平均参加者数
		大人	子ども	計	
4月	138	106	621	727	5.3
5月	135	310	888	1198	8.9
6月	105	189	678	867	8.3
7月	132	208	711	919	7.0
8月	160	235	747	982	6.1
9月	107	218	743	961	9.0
10月	117	203	719	922	7.9
11月	91	102	495	597	6.6
12月	63	32	154	186	3.0
1月	60	26	178	204	3.4
2月	76	32	238	270	3.6
3月	151	106	647	753	5.0
合計	1335	1767	6819	8586	6.4
26年度合計	1156	1394	5290	6684	5.8

(3) 導入型プログラム

今年度は導入型プログラム平均参加率が 92%と高い数値となりました。「はじめて」の参加者が 57%と、前年度よりも増加しました。イベントを目当てに初入园される方も多く、魅力的なイベントを打ち出す事ができたことが伺えます。反対に「3 回以上」の参加者が減少しており、新規参加者をリピーターにつなげられるようなより質の高いプログラムの中身が求められると考えます。

導入型プログラムの参加者の区内率は、区内が 73%と区外よりも高く、当園は地域の方からの自然体験の場として需要が高いと考えられます。

特に参加率が高かったのは「自然素材でミニクリスマスリース作り」(160%)と「木の実でつくろう干支の置物」(175%)です。このイベントでは子どもと大人の参加者数がほぼ同じでした。

今後も子どもから大人まで楽しんでもらえるような、桑袋ビオトープ公園ならではのプログラムを実施していきたいと考えています。

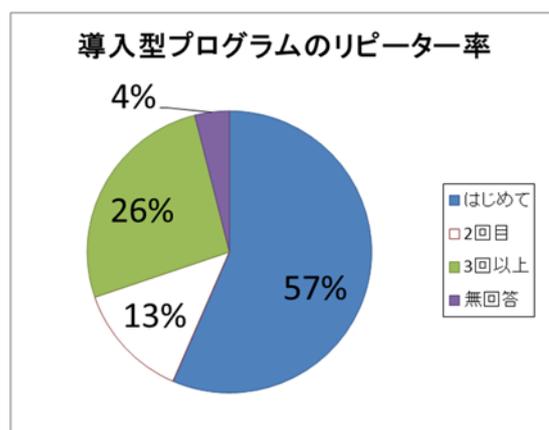


図-2 導入型プログラムのリピーター率

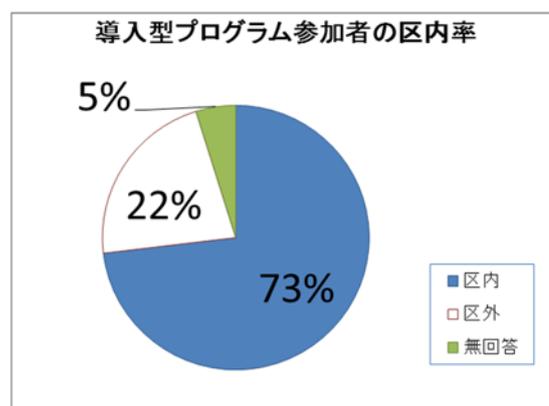


図-3 導入型プログラム参加者の区内率

表-22 導入型プログラム参加状況

	実施日	プログラム名	参加者数			参加率(%)
			大人	子ども	計	
1	4月19日(日)	五感で植物さがし	1	5	6	30%
2	5月3日(日)	野草で押し花絵葉書づくり	7	14	21	105%
3	5月17日(日)	思いっきり生きもの探し~春~	8	15	23	115%
4	6月7日(火祝)	カラフル昆虫コレクション	9	16	25	125%
5	6月28日(日)	五感で楽しむオオガハス	16	9	25	125%
6	7月19日(日)	思いっきり生きもの探し~夏~	2	10	12	60%
7	9月6日(日)	手作り浄化キットで水の浄化実験	4	10	14	70%
8	9月23日(水祝)	ハスの花托でケン玉づくり	9	15	24	120%
9	10月4日(日)	思いっきり生きもの探し~秋~	8	12	20	100%
10	11月8日(日)	種コレクション	2	4	6	30%
11	11月29日(日)	葉っぱのステンドグラスづくり	10	10	20	100%
12	12月6日(日)	自然素材でミニクリスマスリース作り	16	16	32	160%
13	12月13日(日)	木の実でつくろう干支の置物	18	17	35	175%
14	1月10日(日)	ビオトープネイチャークラフト	3	4	7	35%
15	1月24日(日)	野鳥ウォッチング	5	13	18	90%
16	2月7日(日)	思いっきり生きもの探し~冬~	4	5	9	45%
17	3月6日(日)	ビオトープ公園クイズラリー	6	16	22	110%
18	3月20日(日)	ツクシのブローチづくり	6	5	11	55%
計			134	196	330	92%
平成26年度合計(18回実施)			92	219	311	76%

導入型プログラムの事例紹介（一部）

「野草で押し花絵葉書づくり」 5月3日実施

様々な色や形の野草に注目し、見つけた野草で作った押し花をハガキに飾るイベントを行いました。まずスライドで野草について説明し、園内で好きな野草を探してもらいました。野草を電子レンジにかけて押し花にし、できたものをハガキに並べ、上から和紙のシールを貼って絵葉書を完成させました。「この葉っぱはかわいい」「押し花にしたら色が変わった！」など、野草に関心を持って作業している様子が伺えました。

「カラフル昆虫コレクション」 6月7日実施

虫の持つ色の多様性をテーマに観察を行いました。はじめにスライドを使用し、お題の色にあてはまる虫を参加者に答えてもらうクイズを行いました。その後実際に原っぱで虫とりを行い、とった虫のスケッチをしました。スケッチでは、じっくり観察しながら色を塗っている姿が印象的でした。参加者からは、「こんなに色々な色の虫がいるんだ」という驚きの声が多く聞かれました。

「五感で楽しむオオガハス」 6月28日実施

見た目ではなく、手触りやにおいなどの五感を使ってオオガハスを鑑賞しました。はじめにスライドでオオガハスのクイズを行い、オオガハスに関する知識を深めました。その後はハス田でハステアを飲みながら、自由にオオガハスを観察しました。葉の表裏で手触りが違うことや、花からは爽やかな香りがすることなど、目以外の感覚を使って様々な発見をしていました。

「思いつき生きもの探し～秋～」 10月4日実施

はじめにこの時期よく見られる鳴く虫について解説を行った後、参加者に虫かごを貸出し、園内の原っぱで生き物探しを行いました。捕れた生き物は館内で観察を行い、スケッチをしました。鳴き声を頼りに虫を探している参加者の姿が多く見られました。夏には見られなかったエンマコオロギやツユムシが特によく見られ、細かく観察してスケッチをしている様子が印象的でした。

「自然素材でミニクリスマスづくり」 12月6日実施

ツル植物で作った輪に自然物を飾り付けてリースを作るイベントで、参加希望者が多く2回に分けて実施しました。まず木の実などの自然物には様々な色や形のものがあることを伝え、園内で自然物を探してもらいました。その後用意した輪に、自然物を飾り付けてもらいました。ハンノキの実やエノコログサの穂など、参加者は自分で見つけた自然物を楽しみながら輪に飾っていました。「お家に帰ったら飾る」といった声が聞かれ、作品に満足している様子が伺えました。

「木の実でつくろう干支の置物」 12月13日実施

来年の干支であるサルの置物作りのイベントを実施しました。導入部で干支の概要と、ドングリやナンテンなどの木の実を使って置物が作れることを紹介しました。その後園内に木の実を取りに行き、館内に戻ってから工作に取りかかりました。皆それぞれ納得のいく作品ができたようで「玄関に飾ります」などといった声が聞かれました。

「ビオトープ公園クイズラリー」 3月6日実施

園内に設置してある解説板をヒントにしながらクイズを解き、ビオトープ公園の生き物などを知ってもらうイベントを実施しました。最初にスライドを使用して、公園の概要やクイズのルールを説明しました。その後、制限時間の中で自由に園内を周りながら、クイズを解いてもらいました。家族で参加していた方が多く、大人も子供も楽しみながらクイズに挑戦している様子が伺えました。

「ツクシのブローチづくり」 3月20日実施

色付けをしてツクシ型のブローチを完成させてもらうイベントを実施しました。始めにクイズ形式でツクシについて解説を行い、次に園内でお気に入りのツクシを見つけ、色や模様注目してスケッチをしました。参加者がツクシをじっくり観察している様子が見られました。最後にそのスケッチを参考にブローチに色をつけました。「ツクシをこんなに観察したことがなかった」「ブローチがかわいくできて嬉しい」との声が多く聞かれました。

(4) 発展型プログラム

今年度の発展型プログラムの応募率は11回中8回が100%を越え、昨年度よりも高くなりました。このことから、今年度は内容がわかりやすく魅力的なイベント名を打ち出せたと考えられます。特に「身近な外来種を食べよう」「探検！ため池ボートクルーズ」

「泥んこハス掘り体験」は応募者数が非常に注目度の高いイベントであった事が伺えます。一方で全参加者に対しての2日前に参加の有無のついての事前確認を行ったものの、事前や当日にキャンセルが発生し実際の参加者数が定員を下回るものがありました。

参加者の満足度（とてもよかった）は84%と昨年度

(87%)よりも減少し、リピーター率は46%と昨年度と同様に新規参加者がリピーターを上回る結果となりました。新規参加者が多かった事から新規イベントの実施や情報発信が効果的であった事が考えられますが、満足度の向上とリピーター獲得に向け、今後はより質の高いプログラム内容が求められていると考えます。また、導入型プログラムと同様発展型プログラムの応募率は区内の方が70%を越え、当公園で実施する自然体験イベントが地域に求められている事がわかります。

今年度、応募率が高かった事で落選者が多く出たイベントについては、来年度実施回数を増やす事で多くの方々に参加をしていただけるようにしていきます。

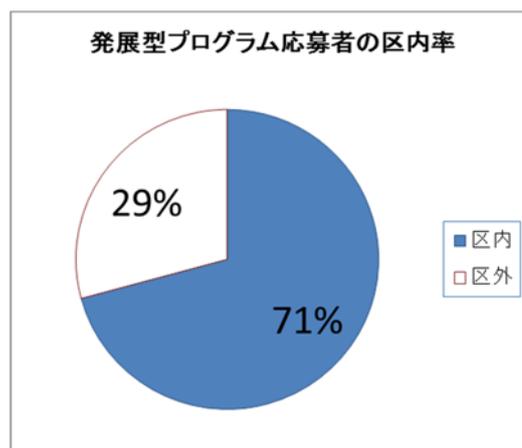


図-4 発展型プログラム応募者の区内率

表-23 発展型プログラム応募状況および参加状況

	実施日	プログラム名	応募者数			応募率(%)	参加者数			定員	参加率(%)
			大人	子ども	計		大人	子ども	計		
1	5月10日(日)	野草のカードケースづくり	5	7	12	60%	5	5	10	20	50%
2	5月31日(日)	水辺まるごと大調査	10	10	20	100%	7	6	13	20	65%
3	6月21日(日)	身近な外来種を食べよう	28	32	60	300%	8	12	20	20	100%
4	7月12日(日)	ため池のかい掘り体験	26	39	65	130%	11	20	31	50	62%
5	8月8日(土)	夜の水辺探検	10	9	19	95%	5	4	9	20	45%
6	9月13日(日)	探検！ため池ボートクルーズ	34	35	69	288%	12	12	24	24	100%
7	10月18日(日)	泥んこハス掘り体験	36	31	67	223%	12	17	29	30	97%
8	11月22日(日)	雑木林を楽しもう	11	9	20	100%	11	9	20	20	100%
9	12月20日(日)	ガマの葉でしめ縄飾りづくり	17	12	29	145%	13	8	21	20	105%
10	2月21日(日)	野鳥のストラップづくり	6	17	23	115%	4	11	15	20	75%
11	3月27日(日)	ピオトープ講座「ミドリガメから考える外来種」	17	0	17	57%	15	0	15	30	50%
計			200	201	401	146%	103	104	207	274	76%
平成26年度合計			178	203	381	125%	85	87	172	307	73%

発展型プログラムの事例紹介（一部）

「身近な外来種を食べよう」 6月21日実施

身近な外来種を食べることで興味を持ってもらい、外来種が環境に与える影響を知り、対策について考えてもらうイベントを実施しました。まず、身近な外来種であるアメリカザリガニとウシガエルについてスライドで説明をした上で、ため池でウシガエルの観察やアメリカザリガニ釣り体験を実施しました。その後アメリカザリガニとウシガエルは食べる事ができるという事を説明し、食用として流通しているものを使用して参加者に調理体験と実食をしてもらいました。今回はアメリカザリガニの天ぷらと酒蒸し、ウシガエルのから揚げを作りました。出来上がった料理を食べると「意外とおいしい」「ウシガエルは鶏肉みたい」という感想が聞こえてきました。最後に外来種とその対策について話をし、「食べる」という事も外来種対策のひとつであること、自分でもどんな事ができるか考えてみてほしいという事を伝えました。

「ため池のかい掘り体験」 7月12日実施

昨年度はデング熱の影響で中止となったイベントですが、今年度は実施時期を変更し参加者の方々に長袖、長ズボンの着用や虫よけの使用を徹底するとともに、公園側でも蚊取り線香を設置して実施しました。水辺の環境管理体験イベントとして公園管理ボランティア・公園サポーターにも協力をいただきました。始めにスライドを使用して、かい掘りの目的とため池で見られる生き物について説明しました。次にため池に移動し、タモ網を使って生き物とりを行いました。ため池に入ると「ザリガニがいっぱい」「エビを見つけた」といった声が聞かれ、生き物とりを楽しんでいる様子が伺えました。生き物とりが終わった後は、浮島周辺にたまっているヘドロをトンボで集め、バケツで運び出す作業を行いました。最後に、多様な生き物が生息できるようになるには環境管理が不可欠なことを伝えてイベントを終了しました。

「泥んこハス掘り体験」 10月18日実施

ハス田の環境管理として公園管理ボランティアと公園サポーターの協力の上でイベントを実施しました。まず、オオガハスのこと、ハス掘りをする事でトンボの利用しやすい環境になる事をスライドで説明し、ハス田へ移動しました。参加者は最初は恐る恐る作業をしている様子でしたが、長いレンコンを掘ることができると、その長さに驚き、夢中になって掘り出す様子が見られました。泥だらけになっても気にせず親子で一緒に楽しんでいる様子も見られ、終了10分前に合図を出した際は、もうそんなに時間が経っていたのかと驚いている参加者もいました。最後に来年のハスの花を楽しむために、また、他の生き物にも利用しやすい環境を作るためには人が手を加えて管理することが大事であることを伝え、イベントを終了しました。

「雑木林を楽しもう」 11月22日実施

生き物探しやクラフトなどのアクティビティを通して雑木林という空間が持つ魅力に気づいてもらうプログラムを実施しました。まず、スライドで雑木林の概要や楽しみ方を説明しました。その後サンクチュアリに移動し、生き物探しの練習を行った後生き物探しを実施しました。葉の上、落ち葉の下、枝積みの下を探すとゴマダラチョウの幼虫やハンノキハムシ、キイロテントウ、ダンゴムシなどが見つかり、参加者は夢中になって観察をしていました。その後サンクチュアリ内でクラフトの素材集めをし、館内に戻って工作をしました。最後に雑木林には落ち葉や落枝があり、それらを利用する生き物たちが集まること、そういった素材を利用して人も工作等を楽しめるという事を伝えました。

「ガマの葉でしめ縄づくり」 12月20日実施

水辺の環境管理で刈り取ったガマを利用してしめ縄飾りづくりのイベントを実施しました。まず館内で参加者同士のアイスブレイクと水辺の環境管理についてのスライドを行った後、ハス田に移動しガマの刈り取り体験をしました。刈り取ったガマはハサミで細かく切り、たい肥場に入れました。ガマに触れること自体が初めてという参加者が多く、「意外と硬い」「かまぼこみたいな切り口だ」などの声が聞かれ、ガマに興味を示している様子が伺えました。館内に戻りしめ縄かざりの説明を行った後、2人1組になってしめ縄づくりを行いました。参加者はガマをねじる作業に大変さを感じている様子でしたが、最後はできあがったしめ縄を見て喜んでいました。その後園内で採取した自然素材や紙垂をしめ縄に飾り、完成させました。「ガマを刈り取る理由がよくわかった」「来年もこのイベントをやってほしい」といった声が聞かれました。

「野鳥のストラップづくり」 2月21日実施

野鳥観察やストラップづくりを通して野鳥の生息環境や形態的な特徴に気づいてもらうイベントとして実施しました。まず、館内でアイスブレイクと園内で見られる野鳥の説明を行ったあと、双眼鏡を持って園内へ野鳥観察へ行きました。最初は双眼鏡の使い方に戸惑っている参加者もいましたが、次第に慣れ、30分という短い間でしたが20種類近くの野鳥が見られました。その後ストラップ作りを開始しました。好きな野鳥を選んでもらい、粘土を使って型を作り、アクリル絵の具を使って彩色しました。本物に近づけようと、絵具の配色にこだわっている様子も見られました。ストラップが完成すると、「売り物みたい」「かわいくできた」など、参加者からは嬉しそうな声が聞かれました。

表-24 発展型プログラム実施後のアンケート結果

	5月10日	5月31日	6月21日	7月12日	8月8日	9月13日	10月18日	11月22日	12月20日	2月21日	3月27日	合計
タイトル	野草のカードケースづくり	水辺まるごと大調査	身近な外来種を食べよう	ため池のかい掘り体験	夜の水辺探検	探検!ため池ボートクルーズ	泥んこハス掘り体験	雑木林を楽しもう	ガマの葉でしめ縄飾りづくり	野鳥のストラップづくり	ビオトープ講座「ミドリガメから考える外来種」	
回答者人数	10	13	20	27	9	24	21	13	17	15	15	184
当公園のイベント参加回数												
はじめて	1	4	12	19	7	17	10	7	6	5	9	97
2回目	3	6	3	4	2	0	7	4	3	1	0	33
3回以上	6	3	5	4	0	6	2	2	8	9	6	51
無回答	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
イベントを知った理由(複数回答可)												
あだち広報	1	0	8	5	10	4	11	1	4	0	3	47
ニュースレター	7	6	5	8	6	5	3	1	7	12	2	62
イベントポスター・ちらし	0	0	0	13	5	0	10	7	6	4	3	48
スタッフから	2	5	3	3	2	1	3	0	0	0	8	27
友達・家族に誘われて	0	0	2	0	0	6	0	0	0	0	0	8
公園ホームページ	0	4	0	0	2	0	2	2	0	0	0	10
その他	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	0	5
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イベントの満足度												
とてもよかった	8	12	17	16	6	22	17	13	17	14	12	154
よかった	2	1	3	10	2	1	2	0	0	0	3	24
あまりよくなかった	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
よくなかった	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
無回答	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	4

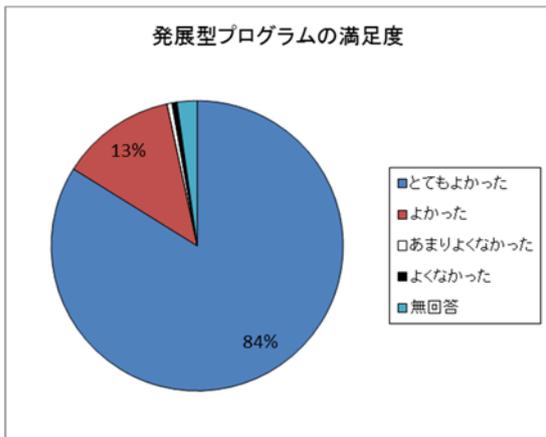


図-5 発展型プログラムの満足度

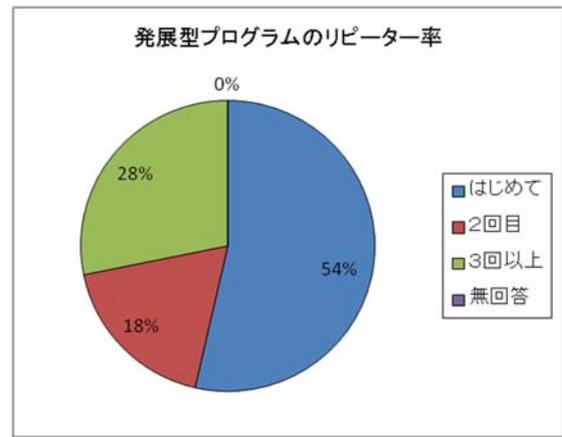


図-6 発展型プログラムのリピーター率

表-25 発展型プログラムのアンケート自由記述（一部）

「身近な外来種を食べよう」

- ・ 外来種を食べるといふ、貴重な経験ができました。
- ・ 初めて食べることができたザリガニ、カエルの骨の構造など知ることができ、楽しく勉強になりました。
- ・ ザリガニが美味しかった。ウシガエルはとり肉の味がした。普段食べられない食品を食べられて経験が広がった。
- ・ ザリガニが築地で売られていることを知り、びっくりしました。ザリガニもカエルも美味しかったです。
- ・ お料理をしたことが楽しかった。
- ・ ザリガニ釣りが楽しかった。ウシガエルが食べられるなんて知らなかった。
- ・ ウシガエルの料理をしたこと。
- ・ ザリガニはエビのように簡単にはムケなかった。
- ・ ウシガエルの膨らんでいるところを押したらぶにゆぶにゆだった。
- ・ ザリガニが食べられること。
- ・ ウシガエルがとても美味しかった。
- ・ 楽しかったことはザリガニ釣り、発見はウシガエルは鳥肉の味がする。
- ・ 食べること。
- ・ 大きなカエルを生で見られたこと。
- ・ 初めて食べる経験をしたこと、築地で売っていると聞いて意外だった。
- ・ カエルはからあげの味がした。
- ・ カエルが美味しかった。(2名)

「ため池のかい掘り体験」

- ・ 生物も良いが、ヘドロにまみれるのは数十年ぶり。子供達は今、体験できないので良い体験でした。
- ・ ヘドロで見えないだけで、中は生き物がたくさんいることにびっくりしました。
- ・ ため池の生物は想像以上に多種にわたることが分かりました。
- ・ いつもは入れない池の中で色々な生物などを見て良かったです。
- ・ いろいろな生き物が意外といてとても楽しかった。
- ・ 色々な生き物がとれたこと。思った以上に生物が多かったこと。
- ・ 外来種がたくさんとれたこと。
- ・ 生き物がとることが楽しかった。
- ・ ヘドロすくい。
- ・ アメリカザリガニやウシガエルなどの数が増加したことが残念でした。モツゴなどの数も減っていた。
- ・ アメンボが交尾をしながら、たまごを産んでいた。
- ・ エビがたくさんとれるところや、さかながいっぱいいるところもあった。
- ・ あみですくって楽しかったです。
- ・ アメリカザリガニを毎日とっているのにもかかわらず、多い数にとってもビックリしました。
- ・ 生き物をとることが楽しかった。
- ・ ザリガニやエビ、魚がいっぱいいてとても楽しかった。
- ・ 自分でザリガニを手でつかまえられるようになったー！
- ・ なかなか体験のできないドロコ遊びと生物との出会い。子供達の集中力もサイコーに！
- ・ ザリガニがいっぱいて楽しかった。池の中に入れて面白かった。
- ・ ザリガニがつりで釣らなくてもこんなにいるなんて思いませんでした。また行ってみたいです。

「泥んこハス掘り体験」

- ・ 泥遊びの楽しさや、小さな生き物がいることの発見がよい経験になりました。
- ・ レンコンがどのようになっているかをはじめて知りました。
- ・ ハスの根がこれほど長くつながっていることにおどろきました。
- ・ すごく長くつながっているレンコンを掘ったときが楽しかった。
- ・ 親子で泥んこになって楽しかったです。
- ・ 初めての経験で、また、泥まみれになることもめったにないのでとてもよかったです。
- ・ ハス田の中にいろんな生き物がいて面白かったです。
- ・ レンコンがこんなに長く掘るのが大変だと知った。
- ・ すごくこんがらがっていて取りにくかったため腰が痛くなったが、とても楽しかった。
- ・ レンコンのでき方も初めて知りました。
- ・ 大きいレンコンが見られたこと。
- ・ 食用のレンコンと違うのが知れた。
- ・ ハスの種を初めて見れた。
- ・ 初めてハス掘りをして、泥の中での作業が楽しかったです。
- ・ 泥の中に入ることが初めは気持ち悪かったですが、だんだんと気にならなくなりました。
- ・ ハス掘り以外にザリガニもとれたこと。
- ・ 着替えの簡易テントが外にあるといいと思います。冷えて寒いので子供はすぐに着替えさせたい。

「雑木林を楽しもう」

- ・子供達が自分で虫などを探せたのが良かった。良い体験が出来た。
- ・生き物の生息している場所を知れたので、楽しかったです。クラフト体験もとても良い作品が出来たので良かったです。
- ・スタッフの方に虫の捕まえ方や、実際に手の上に乗せてもらい、娘が喜んでいました。スタッフの方が優しく、娘も何か見つける度にスタッフに嬉しそうに見せに行っていました。
- ・雑木林が良かったです。
- ・秋は虫が少ないと思っていましたが、色々な生き物を見て触れることができ、親子とも楽しかったです。
- ・ハンノキハムシを自分で見つけられたことが嬉しかったです。
- ・草木や虫の名前を教えてもらえるので楽しい。
- ・工作、虫探し
- ・普段は見られない虫をいっぱい発見しました。
- ・自然と触れ、楽しいクラフト作りもできて、とても楽しかったです。
- ・初めて見つけた虫がいっぱい居て、楽しかったです。

「ガマの葉でしめ縄飾りづくり」

- ・ガマの葉を刈り取るところから始めて、縄をねじっていくところはとても力を使いましたが、なかなか経験できない事だったので楽しかった。
- ・ガマの葉でしめ縄が作れるということ。手作りで家に飾れるものができたのは嬉しかった。時間がゆっくりだったのでリラックスできた。
- ・ガマを刈り取って、切るのが楽しかった。くるくるガマを回して輪にするのが少し難しかったけど楽しかった。
- ・ガマの葉を刈り取る理由がよくわかり、勉強になりました。
- ・ガマの葉を巻いたのが大変だったけど楽しかった。
- ・楽しかった事は、ガマの葉を切った事とガマの葉をねじった事。
- ・ガマの穂刈りが楽しかった。
- ・ビオトープ公園の移り変わり等色々とお話を聞いて勉強になった。
- ・公園内の植物を使って作ったこと。ガマの乾燥した香りを初めて嗅いだ、良い香り。
- ・ガマの葉でしめ縄ができるとはびっくりした。
- ・皆さんと一緒に物を作る楽しさ。
- ・初めての事ばかり、ありがとうございました。またお会い出来れば幸いです。
- ・自然が大好きな私はビオトープのイベントはいつも感激して参加させて頂いております。職員の方もとても優しく接して下さり、何より心からまたの参加を楽しみにしております。
- ・木の実の採取、ガマ刈り
- ・色々な植物があって自然がいっぱい楽しかった。
- ・ビオトープ公園って虫を見つめるだけじゃなくて、遊ぶこともできることがわかった。

「野鳥のストラップづくり」

- ・子どもの付き添いで申込みましたが、鳥の種類や観察することで新しい発見ができたのが楽しかったです。絵具を使ったのも久しぶりで懐かしかったです。
- ・身近にもいろいろな種類の野鳥がいることを知りました。粘土工作や色ぬりも楽しかったです。
- ・足立区（花畑）にも、こんなにたくさんの鳥がいたこと。
- ・たくさんの野鳥を見ることができた。
- ・野鳥を観察するところ。
- ・双眼鏡で野鳥の観察が楽しかった。
- ・色をぬるのが楽しかった。いろんな鳥がいるんだなと思った。
- ・色ぬりがちょっと難しかったけど、おもしろかったです。
- ・ストラップづくりが楽しかった。キジバトやいろいろな知らない鳥もみられた。
- ・色ぬりが楽しかった。
- ・色ぬりが難しかったけど、楽しかったです。
- ・鳥を作るとても楽しかった。
- ・わたしは粘土を使うことが好きなので、粘土を使えてよかったです。

⑦ 特別企画展示「みんなで作るビオトープ生き物写真コレクション」開催

(7/22～8/30)

今年度の特別企画展示は、桑袋ビオトープ公園が開園から10周年を迎えたことを受け、10年間の園内の環境や生き物の変化の様子を伝えるパネルや映像展示と、今現在見られる生き物を実際に入園者の方に捕まえてもらい、その生き物の写真を撮ってボードに貼っていく参加型の展示という、大きく2つの構成の展示としました。

昨年度と同様、清流館へ至る園路に企画展示の趣旨を説明した大きなパネルを設けたり、入口自動ドアや館内の目につきやすい位置に案内を出したりなど、館内の展示スペースへと誘導する導入を設けました。

展示コーナー中央には、期間中毎日実施した様々な生き物とり体験で捕まえた生き物の写真を環境ごとに展示する、生き物写真コレクションのスペースを設置しました。またその周囲には、開園から10年間の公園の変化が分かる写真や、見られた生き物などをまとめた年表を展示しました。さらに、それらの画像を10分程度の映像にまとめた「桑袋ヒストリー」の上映も行いました。そして園内を代表する草地などの環境については、生体展示と合わせて、生き物が暮らしやすい環境にするために行ってきた管理方法についてパネルで紹介しました。展示のまとめとして、「10年後の桑袋ビオトープ公園はどうなっていてほしいか」「どんな生き物に入ってきてほしいか」という2種類の質問を書いた紙を用意し、入園者の方に意見を書いてもらいました。

生き物とり体験や展示をきっかけにその生き物が暮らしやすい環境や、その環境を維持するためには管理が必要なこと、生き物の場所としての桑袋ビオトープ公園の成長などに気づいてもらうよい機会となりました。

⑧ 団体対応

当公園では、校外学習をはじめとする学校などの団体の積極的な受け入れを行っています。

今年度の団体対応数は111団体6,731人で、昨年度に比べると団体数は10団体、対応者数は2402人の増加となりました。対応者数が増加した要因としては、昨年度は中止となったあだち自然体験デーを今年度は実施したことや、デング熱の影響が今年度はなかったことなどが考えられます。また近隣の保育園や介護施設など、例年対応を行っている団体のリピート率が高く、今年度も例年と同程度の対応を行うことができました。

次年度も積極的に団体対応の受け入れを行っていくために、引き続きホームページにおけるPRの強化などを行っていく方針です。また出張授業プログラム集を充実させるなど、出張授業に関しても重点を置いていく方針です。

出張PRの詳細については「園外でのPR活動」(P.54)に記載します。

表-26 団体対応の実施状況

月	回数	大人	子ども	計		団体数	大人	子ども	計
4月	0	0	0	0	保育園・幼稚園	37	124	1040	1164
5月	10	495	541	1036	小学校(園内対応)	9	48	617	665
6月	10	497	453	950	小学校(出張授業)	2	4	94	98
7月	3	9	35	44	中学校(園内対応)	2	7	20	27
8月	5	70	179	249	中学校(職場体験)	11	0	35	35
9月	9	699	963	1662	高校	0	0	0	0
10月	15	90	374	464	大学	3	30	0	30
11月	26	495	941	1436	介護施設	25	344	33	377
12月	12	86	100	186	養護学校	1	10	0	10
1月	11	34	208	242	自治体	2	34	0	34
2月	6	164	246	410	活動団体	8	76	22	98
3月	4	23	29	52	外国	0	0	0	0
計	111	2662	4069	6731	出張PR	10	1976	2199	4175
平成26年度	101	1581	2748	4329	その他	1	9	9	18
					計	111	2662	4069	6731

(1) 小学生未満の対応（保育園・幼稚園）

今年度も通年利用として近隣の保育園に対して5歳児を対象とした対応を計25回行いました。内容としては、5～9月頃に子どもが関心を持ちやすい昆虫探しのプログラムを中心に行い、子どもが成長するにつれ植物や自然環境を題材にしたプログラムを実施しました。また、1園に関しては年2回5歳児と一緒に4歳児クラスも参加したプログラムを実施し、次年度からの対応を滑らかにできるよう保育園と連携して取り組みました。今後もさらに充実したプログラムを提供していく方針です。

通常の団体対応としても、各団体の希望を取り入れたプログラムを実施しました。当公園では毎年リピートして利用していただいている団体が多く、利用者に満足いただけているものと思われます。小さい子どもが安全に自然に触れ合うことのできる地域の貴重な場として、今後も需要があると思われます。引き続き満足度の高い対応を行っていきたいと考えています。

保育園、幼稚園対応の事例紹介（一部）

「春の公園探検ゲーム」

実施日：5月8日（金）

五感を使って、春の園内の自然に触れ合ってもらおうプログラムを実施しました。まずは聴覚など、視覚以外の感覚を使った簡単なゲームを行いました。その後ワークシートを用いて、園内を自由に回ってもらいながら生き物や手触りのよい植物などを探してもらいました。1つ発見すると、嬉しそうに見つけたよと教えてくれる姿が印象的で、楽しみながら活動できていたようでした。

「夏の生き物さがし」

実施日：8月25日（火）

7月の活動が雨天で中止になったため、約2ヶ月ぶりとなった今回は、みっけの原っぱにて生き物探しを行いました。いきなり涼しくなった日でしたが、バッタやカマキリ、チョウなどの生き物を捕まえることができ、子どもたちは嬉しそうな様子でした。その後館内に戻り、捕まえてもらった生き物のスケッチをしてもらいました。毎回プログラムの終わりに出している生き物調べの宿題として、今回はショウリョウバッタをテーマにして出しました。

「葉っぱスタンプ」

実施日：10月28日（水）

最初に秋の木の様子と、この時期には色々な形や色の葉があることを紹介しました。続いて園内で落ち葉探しを行いました。その後自分で拾った落ち葉にインクを付けてスタンプにし、ハガキに葉っぱスタンプを押しました。上手にスタンプを押すことが出来るお気に入りの葉っぱを見つけ、嬉しそうにスタンプを押している姿がよく見られました。

「ネイチャーゲーム」

実施日：1月13日（水）

1月は自然を使った2種類のゲームを実施しました。まず自然の中に設置した人工物を見つけ出す、カモフラージュゲームを行いました。このゲームでは子どもたちが一生懸命に人工物を探している様子が伺えました。次に解説員が用意した自然物を覚えて同じ物を園内で探す、同じ物探しを

行いました。探している自然物を見つけると、「あったよ」と嬉しそうに見せてくれた姿が印象的でした。子どもたちは、楽しみながら自然と触れ合っていました。

(2) 小学校・中学校の利用

今年度の小学校・中学校の利用は延べ11回でした。前年度に引き続き、公園近隣の小学校では、1年生による年間4回のプログラムを予定通り実施しました。

またその他の小学校へは、季節の自然を感じるための自然発見ビンゴなどのプログラムを実施しました。

小学校・中学校対応の事例紹介（一部）

「生きものさがし」

実施日：8月27日（木）

今年度2回目のプログラムの前半は、野外で「いきものはっけんシート」を見ながら、シートに載っている生き物探しをしました。後半は、生き物探しの練習としてスライドでクイズを行った後、5～6人のグループに分かれて生き物を捕まえ、スケッチをしました。大きなバッタやセミを捕まえるなど、春とは違う生き物や自然の様子を楽しみながら学んでもらうことができました。

「冬の自然観察」

実施日：1月15日（金）

園内の冬の自然に親しんでもらうプログラムを行いました。最初に館内で公園紹介をした後、ワークシートを用いて園内で冬越しの生き物などを探してもらいました。カマキリの卵やミノムシを初めて見た学生が多く、「すごい」といった驚きの声が聞かれました。その後館内でヤマハギの枝をヒモで結び合わせ、楽器を作りました。枝の太さで出る音が違うことを発見し、みんな完成した楽器を楽しそうに叩いて音を出していました。

(3) 大学の利用

今年度は延べ3回対応を行いました。前年度に続き、区内の大学の授業での利用があり、公園の概要や公園の活用例についての解説を行いました。また展示作成の研修として利用する大学もありました。

大学対応の事例紹介（一部）

「ビオトープ公園の紹介・利用について」

実施日：1月28日（木）

来年度から保育士や小学校の教師になる学生向けに、公園紹介と保育園や小学校における当公園の活用例を解説し、実際にプログラムの体験をしてもらいました。園内ガイドや自然体験プログラムを通じて「ビオトープ」という考え方に触れ、身近な自然の中で遊ぶ楽しさや意義を感じてもらえた様子でした。

(4) 特別支援学校、高齢者福祉施設の利用

今年度も近隣の足立特別支援学校や区内の高齢者福祉施設の利用があり、園内やあやせ川清流館の見学をされていました。1回30分程度の館内見学が主ですが、クラフトを実施することもありました。今後も短時間の利用でも楽しんでいただけるよう、館内展示の充実やプログラムの充実を図っていきます。

特別支援学校、高齢者福祉施設対応の事例紹介（一部）

「野草の押し花しおりづくり」

実施日：5月26日（火）、27日（水）

野草を使った押し花のしおりづくりのプログラムを行いました。使用する野草は、館内に来る途中に参加者自身に採ってきてもらいました。自分で採ってきた野草が素敵なしおりになって嬉しいとの声や、こんなに簡単に押し花が作れることに驚いたという声が多く聞かれました。できあがったしおりを参加者同士で楽しそうに見せ合っている様子が印象的でした。

(5) 自治体、活動団体の利用

今年度は10団体への対応を行いました。毎年利用していただいている自治体の対応もありました。

自治体、活動団体対応の事例紹介（一部）

「ビオトープについて」

実施日：8月5日（水）

小中学校の先生方を対象に、ビオトープの意味や学校でビオトープを使った授業をする際のポイントについて説明しました。最初にスライドを使用して公園概要を説明し、園内のガイドをしました。その後プログラムを体験してもらい、学校で授業を行う際のポイントを説明しました。わざわざ池を作らなくても、花壇や校庭など、自分たちの学校でもビオトープと呼べる場所があることに驚いている様子が伺えました。

(6) 小中学校の総合学習等の対応

今年度は小学校への出張授業を2回、中学校の職場体験を延べ11回行いました。出張授業については年度当初にプログラム集を作成し、校長会での配布を行いました。申込み団体は1校から2件の申し込みに留まりました。

小中学校の総合学習等の対応事例紹介（一部）

「学校ビオトープを考えよう」（出張授業）

実施日：11月27日（金）

小学校内の現在使用されていないビオトープについて、どのように利用していくかを定めるため、まずビオトープとは何かについての授業を行いました。ビオトープの概念や外来種等のことをクイズを交えながら話したところ、2年生の生徒たちは興味を持ってくれたようでした。その後ビオトープの図を使いながら、どんな環境のビオトープを作りたいか、グループごとに話し合ってもらい

ました。「早くビオトープを作りたい」などの声も聞かれ、実際のビオトープ作りに向けて士気が上がった様子でした。

「職場体験」

実施日：1月20日（水）～22日（金）

桑袋ビオトープ公園で自然解説員が行っている仕事を紹介し、その中からいくつかの仕事を体験してもらいました。初日に公園紹介と自然解説員の仕事紹介を行った後、展示作成や園内ガイドなどの仕事を行ってもらいました。展示作成など、想像していなかった作業もあり大変だと感じたこともあったそうですが、最後まで丁寧に作業していました。3日間の体験を通じて、自然解説員の仕事に興味をもってもらえたようです。

① ビオトープの基本概念

ビオトープとは、BIO（生き物）＋TOP（場所・空間）で、「生物群集が生息できるような環境条件を備えた地域」と定義づけられます。

近年失われつつある自然環境を取り戻そうと、都市部や市街地にビオトープが設置されています。自然は人々が手を加えることで多様性が生じ、様々な生き物が生息できる環境を保つことができることから、多くのビオトープ活動は必然的に人の手による管理作業を伴うことが前提となります。

・ 環境の再現、生き物の呼び戻しを目指す。

ビオトープ活動では、安易に生き物を持ち込む（人為的に導入する）のではなく、「以前その場所に存在していた環境を再現し、その場所に生息していた生き物を呼び戻し、それらが定着しやすいように環境の維持管理を行うこと」が原則です。

・ 生態系における生産者の繁栄を目指す。

生態系ピラミッドの頂点に位置する生き物の存続には、下位に位置する生き物の存在が不可欠です。当初から生態系ピラミッド上位の高次消費者の定着を考えるのではなく、生態系ピラミッドの根底に位置する生産者の繁栄を心がける必要があります。そして、その環境にあった生き物が定着し、豊かな生態系が維持されるには、長い時間と多大な努力が必要です。

・ 外来種問題

「外来種」は「在来種」に対する言葉であり、海外から日本に持ち込まれた種だけを指すものではありません。気候的、地形的に隔てられた他地域の生き物は、外来種と位置付けられます。外来種の持ち込みは、自然状態では起こらない様々な問題を引き起こし、地域生態系のバランスを崩しかねません。そこで、対策として「侵入の予防」「早期発見と対策」「定着している場合は駆除・封じ込め」の検討が望まれます。

② 当公園における環境管理の考え方

当公園は都市公園という性質上、「ビオトープ」であると同時に「公園」であることが求められており、これは環境管理を考える上での重要な要素になります。

環境管理においては、園内を大きく「公園ゾーン」と「ビオトープゾーン」に2分し、図-7のようにゾーニングしています。

公園ゾーンの管理では、公園利用者にとって魅力的かつ安全に利用できる管理を優先する必要があります。区との協議の上「公園ゾーン」という分類を細分化し、「公園ゾーン」「園路ゾーン」「浄化施設北側斜面ゾーン」「外周林ゾーン」としました。

ビオトープゾーンの管理では、多様な生き物の生育、生息に重点を置く必要があります。単一的ではなく多様な環境や植生区分がモザイク状に配置されることが理想的です。そのためビオトープゾーンの中を、さらに7つのゾーン（草地 A1、草地 A2、草地 B、疎林、林地 A、林地 B、水辺）に分け、それぞれに目標とする自然状態を設定し、環境管理計画案を作成しました。

なお、各ゾーンの役割は完全に割り切るのではなく、ビオトープゾーンであっても公園的配慮を、公園ゾーンであってもビオトープ的配慮を相互に検討し、管理を行いました。

桑袋ビオトープ公園 環境管理ゾーニング

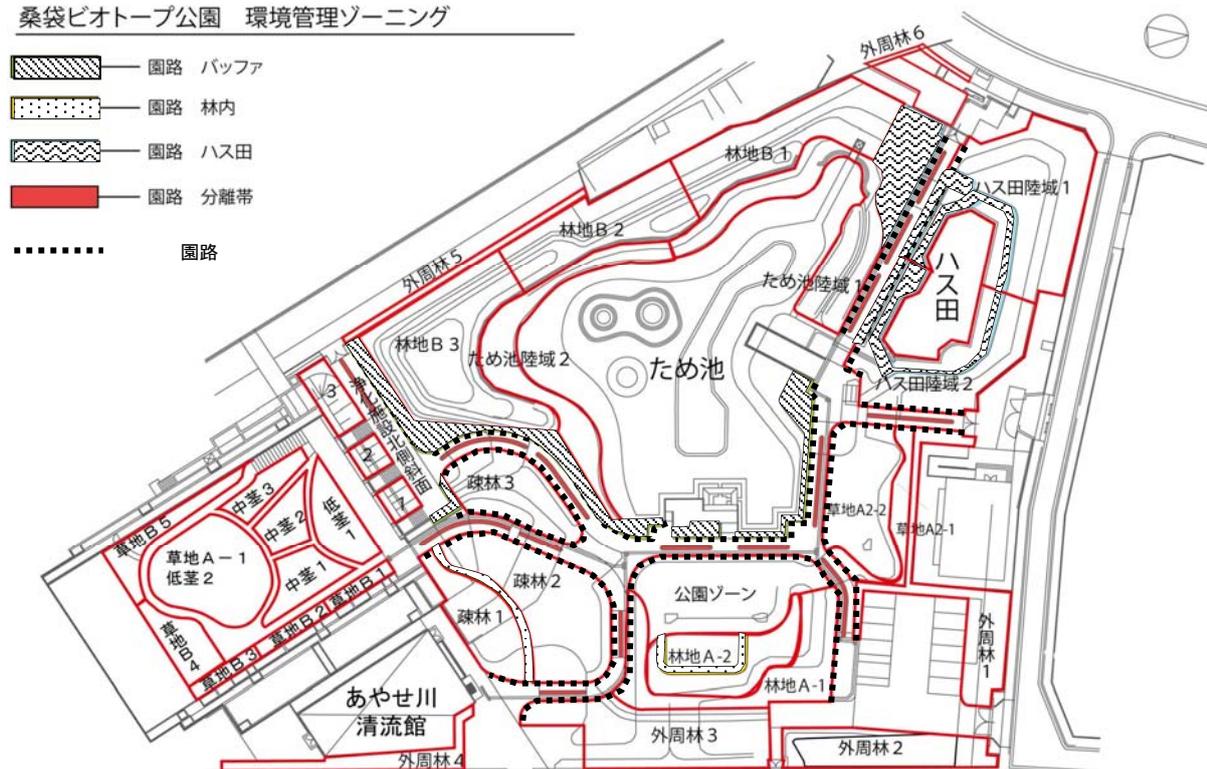


図-7 桑袋ビオトープ公園 環境管理ゾーニング

③ 実際の活動

環境管理作業については、「①ビオトープの基本概念」「②当公園における環境管理の考え方」を踏まえて作業を進めました。

当公園のビオトープとしての環境管理は、PDCA サイクル (PLAN→DO→CHECK→ACT) に基づいて行いました。PDCA サイクルを一貫して解説員が行うことで、ビオトープとしての景観を考慮した管理作業を行うことができました。管理作業自体がビオトープ公園の重要な解説素材となっており、ビオレンジャー活動などと連携した活動を行うことができました。また、入園者からの要望・意見を反映させやすく、入園者にとっても快適な空間となるよう配慮した管理を行いました。

(1) 植生管理作業

植生管理作業については、ゾーンごとの草刈り作業のスケジュールを立て、平成 27 年度初めに「作業行程表」を作成しました。これに基づいて、毎月環境管理計画の見直しを行いながら作業を行いました。

水辺の植生管理については、主に公園管理ボランティアの活動として行いました。

今年度に行った実際の植生管理作業は表-27の通りです。

今年度は雨天等による作業の延期が続き計画通りに作業実施が出来ない事がありました。その結果作業が困難になる位まで草丈が伸びてしまう事がありました。来年度は植生管理作業延期の振替日はなるべく早く行う事で当園の多様な環境を保持していきたいと考えています。

※作業内容の詳細については、「平成 27 年度 桑袋ビオトープ公園環境管理の見直し」(資料)をご覧ください。

表-27 平成27年度 環境管理作業実施工程表

ゾーン名	管理手法	単位作業日数 (日)	作業工程の日数(回)												計	総作業日数 (日)	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
草地A1	草地A1低基1	カマ+芝刈機	0.5	1	2	1	1		1			1				7	3.5
	草地A1低基2		0.5	1	1	2	2		1	1						8	4.0
	草地A1園路	芝刈機	0.5	2	2	2	2	1	1	1	1	1			2	15	7.5
	草地A1中基1		刈払機	1.0				1					1			2	2.0
	草地A1中基2			1.0									1			2	2.0
草地A1中基3				1	1						1		1	4	4.0		
草地A2	草地A2(集会所1)	芝刈機	0.5		1										1	0.5	
	草地A2(集会所2)		0.5	1	1	2	1	1	1	1					8	4.0	
公園ゾーン	公園ゾーン(IBA-2)	芝刈機	0.5		1	1	1		2						5	2.5	
草地B	草地B1(4年サイクル)	刈払機+ノコギリ	1.0												0	0.0	
	草地B2(4年サイクル)		1.0											1	1	1.0	
	草地B3(4年サイクル)		1.0												0	0.0	
	草地B4(4年サイクル)		1.0												0	0.0	
	草地B5(年1管理)	刈払機+ノコギリ	1.0											1	1	1.0	
林地A	林地A1	カマ、刈払機	1.0			1	2					1			4	4.0	
	林地A2		1.0				2								2	2.0	
林地B	林地B1	カマ、刈払機	1.0										1		1	1.0	
	林地B2		1.0									1		1	1.0		
	林地B3		1.0									1		1	1.0		
疎林	疎林1	カマ、刈払機	1.0		1							1			2	2.0	
	疎林2		1.0				2								2	2.0	
	疎林3		1.0			1									1	1.0	
水辺(ため池)	水辺(ため池 水域)	カマ	—	1	1	2	2				2	1	1	1	11	—	
	水辺(ため池陸域1)		—												0	—	
	水辺(ため池陸域2)		—												0	—	
水辺(ハス田)	水辺(ハス田 水域)	カマ	—		1			2	1	2					6	—	
	水辺(ハス田陸域1)		カマ、刈払機	1.0				1	1				1		3	3.0	
	水辺(ハス田陸域2)			1.0			1	1			1		2		5	5.0	
園路	園路	芝刈機(カマ)	0.5	1		1	1				1				4	2.0	
	園路(分離帯)			0.5	1		1	1	1	1						5	2.5
	園路(パフファ)	刈払機	0.5	1		2				1					4	2.0	
	園路(林内)			0.5				1	1							2	1.0
	園路(ハス田)			0.5		2	1	2	1	1						7	3.5
外周林	外周林1	カマ、刈払機	1.0				1								1	1.0	
	外周林2			平成27年度よりシルバー人材センターにより管理											0	—	
	外周林3				1		1									2	2.0
	外周林4															0	0.0
	外周林5															0	0.0
	外周林6												1			1	1.0
浄化施設北側斜面	浄化施設北側斜面1	カマ	1.0		1				1						2	2.0	
	浄化施設北側斜面2				1		1				1	1			4	4.0	
	浄化施設北側斜面3					1		1							2	2.0	
その他	その他(駐車場横植え込み)	カマ	0.5	シルバー人材センターにより管理											0	0.0	
	その他(集会場側門植え込み)			0	0.0												
																77.0	

(2) 外来種の駆除

平成 21 年度より、区民協働型事業の一環として、入園者にアメリカザリガニの外来種としての問題を理解していただいたうえで、アメリカザリガニの捕獲に協力してもらっています。

今年度は、年間で 3,949 人（昨年度 3,105 人）の方が参加され、3,034 匹（昨年度 2,069 匹）のアメリカザリガニの駆除を行うことができました。昨年度と比べると約 1,000 匹増えてい

ますが、昨年度はかい掘りイベントが中止になったこと（今年度の捕獲数は 320 匹）や、ザリガニ釣りを実施する人数の増加（昨年度 3,105 人、今年度 3,949 人）が要因と考えられます。

ウシガエルについては、トラップによる成体の駆除、卵塊の駆除を実施しました。幼体の駆除については、9 月にため池の水を抜いて囲い網で大規模な捕獲を実施しました。今年度の捕獲数は成体が 151 匹（昨年度 133 匹）、幼体が 812 匹（昨年度 912 匹）となりました。成体の捕獲数が減少しておらず、今後も駆除を継続する必要性が示唆されました。なおウシガエルは非常に機敏で人力で成体を捕獲するのは難しいため、トラップによる捕獲が効率のいい駆除方法であると考えられます。卵塊駆除は、目視で卵塊を発見し手網で除去する方法で行いました。卵塊には多い場合で数万個の卵が含まれるため、非常に効率のいい駆除方法であるといえます。また、成体が冬期にハス田付近のススキの根元で冬眠することが確認され、今年度は 30 匹以上を捕獲することが出来ました。ウシガエルの動かない冬期に出来る効率のよい捕獲方法であり、来年度以降も実施していきます。

また今年度は夏頃からため池で人為的に持ち込まれたコイが見られ、3 月に駆除活動を行いました。来年度も継続して外来種駆除活動を行うとともに、ヒメダカや外来植物などの駆除方法の確立や駆除の実施を新たに行っていきます。

表-28 外来種の駆除

種名	駆除数
アメリカザリガニ	3,034
ウシガエル(幼体)	812
ウシガエル(成体)	151
コイ	1

(3) モニタリング調査（別紙参照）

ビオトープ公園の環境がどのように遷移しどのような生き物が定着するかを把握するとともに、環境管理の効果測定を行うため継続的なモニタリング調査を実施しました。調査結果は適正な環境管理に活かすと共に、インタープリテーション活動を展開するための貴重な情報として利用することができました。モニタリング調査の詳細については「桑袋ビオトープ公園モニタリング調査報告書（平成 27 年度）」をご覧ください。

調査地 ①園内（ゾーン別）、②周辺緑地（大鷲神社）、③周辺水域（綾瀬川、毛長川、伝右川）

調査時期 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

調査内容 ビオトープ定点写真

生物相調査 ビオトープ活動 before & after 調査、植物相調査、動物相調査、
生物歴調査

相対照度と気温調査

水質調査 透視度・溶存酸素・pH・水温・COD・全窒素・全リンの測定

表-29 平成27年度モニタリング調査回数

調査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
ビオトープ定点写真		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
植物相	木本								1					1	
	草本		1		1		1		1		1		1	6	
	草本群落		1			1			1			1		4	
動物相	鳥類		1		1		1		1		1		1	6	
	昆虫		1		1		1		1		1		1	6	
	哺乳類	日常業務内で適宜実施												-	
	魚類				1										1
	両生類	日常業務内で適宜実施												-	
	爬虫類	日常業務内で適宜実施												-	
	その他	日常業務内で適宜実施												-	
	生物歴調査(100選)	日常業務内で適宜実施												-	
相対照度と気温		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
水質	透視度	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	溶存酸素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	pH	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	水温	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	COD	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	全窒素			1		1	1		1				1		5
	全リン			1		1	1		1				1		5
周辺緑地	大鷲神社						1							1	
周辺水域	綾瀬、伝右、毛長						1							1	

(4) 桑袋ビオトープ公園みどころ 100 選 (桑袋 100 選)

一般入園者が興味をもつ動植物および、環境指標となりうる動植物等約 100 種 (植物 35 種、動物 62 種、および霜柱・氷・真夏日など自然現象) を選定し、平成 23 年度から継続して週ごとに記録を行っています。調査結果については昨年度と比較して大きな変化はありませんでしたが、公園内の自然の変化を簡単に掌握できる貴重な情報となりました。情報はホームページへ掲載しており、公園の季節の見どころを伝える面でも役立ちました。また、生物ごとに他の年度の発生時期や植物の開花時期と比較することが可能で、窓口対応など解説活動で活用しました。

6) 区民協働型運営の展開

① 区民協働型運営の概要

近年、自然環境に対する区民の意識は高まり、地域の自然を大切にしたい、失われた自然を取り戻したいというニーズが増えています。こうした社会的ニーズに応えるためには、公園の自然環境の整備と同時に、地域住民に当公園への愛着を感じていただき、その存在意義と適切な環境管理の必要性を理解していただくことが不可欠です。そのためにも区と区民が連携しながら公園の管理運営を行うことが求められます。

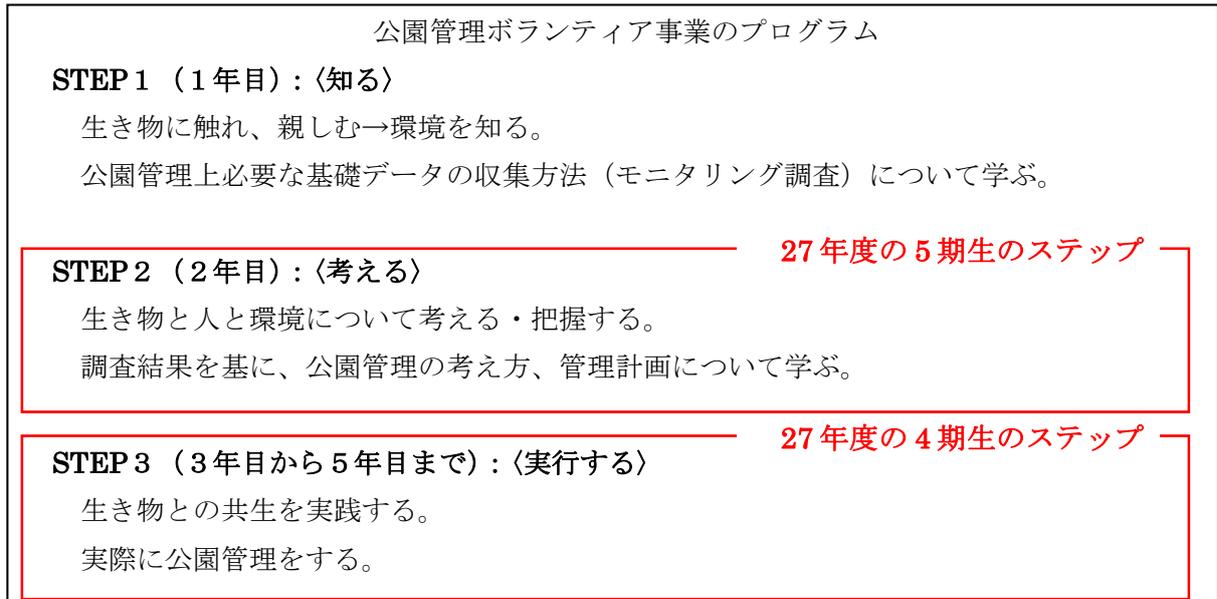
これらを受けて今年度は大人を対象とした区民協働型事業として、園内の水辺環境管理を行う「公園管理ボランティア」活動を軸に、修了後の活動となる「ビオトープ公園サポーター制度」、「提案型ボランティア制度」を展開しました。他にも、前年から開始した「野外解説ボランティア」の活動を継続しました。また、子どもを対象とした区民協働型事業として「ビオトープ公園ジュニアレンジャー活動」、ザリガニ釣りなどの「飛び込み型環境管理ボランティア」を実施しました。

今年度新たにCSR活動受け入れの仕組みを作りましたが申込みはありませんでした。来年度はCSR活動受け入れの周知を行っていきます。

② 公園管理ボランティアの活動とその成果

平成 17 年 12 月より開始した区民協働型運営の中心となる活動です。公園管理ボランティアは、多様な生物の生息空間を創出するため、特に水辺の環境整備を中心に活動しています。年間の活動計画は、ボランティア自身で立てた上で足立区と調整し、決定しています。公園管理ボランティアの参加には条件があり、公園管理ボランティアの趣旨を十分に理解した上で同意書を取り交わし、2 年間の養成講座（STEP1、STEP2）を受講した後に、3 年間の公園管理の実践期間（STEP3）に移行します。

今年度は 4 期生が 4 年目、5 期生が講座受講の 2 年目となり、計 11 名の方が活動を行いました。



図－8 公園管理ボランティア事業のプログラム

表－30 公園管理ボランティア登録者内訳

期生	男	女	計	備考
4期	6	1	7	うち区内在住者 6名
5期	3	1	4	うち区内在住者 3名
計	9	2	11	

(1) 4期生の活動とその成果（活動4年目）

4期生は今年度で活動開始から4年目、実践期間2年目となりました。昨年度、3期生から教わったことと自分達の経験を活かしながら、管理作業を実施しました。また、OJTとして第3週に5期生が加わり、共に活動しました。

1年間の活動としてはこれまで継続して行ってきた、ため池やハス田周辺の水辺の環境管理活動を中心に行いました。7月には「ため池のかい掘り体験」を、10月には「泥んこハス掘り体験」のイベント補助として参加をしました。

・水辺の環境管理作業

今年度の5月から7月にかけてはカキツバタやミソハギ・ハンゲショウ周囲に繁茂したガマやウキヤガラの刈り取りなど、公園の見どころとなる植物の生育を考えた作業を行いました。8月にはオオガハスの遺伝子保護のための花托の刈り取り、開放水面を作るためのハスの刈り取り、繁茂し始めていた外来生物であるアメリカセンダングサの抜き取りを行いました。

9月から10月にかけては、ハス田の開放水面の確保を目的とした「泥んこハス掘り体験」のイベントに向けたハスの刈り取りを行いました。11月からはため池の浮島における枝の剪定や草本の抜き取り、ため池周囲に生えるヤナギの抜根やウキヤガラなどの刈り取りなどを行いました。

今年度も作業の際に出る副産物が多く、出来上がった堆肥の袋詰め作業を4回行いました。

次年度は今年度の作業をベースに、適切な管理作業ができるように植物の生育状況に合わせた作業計画を作成し、実施していきます。

・植物の定点撮影

今年度は植物の定点撮影を第2週に行いました。撮影対象はため池で保護、生育しているアサザとし、季節や作業を行う事で変わる植物の様子を記録しました。

(2) 5期生の活動とその成果（活動2年目）

5期生の参加者の特徴としては、区内在住者だけではなく区外からの参加者もいること、20代～60代と幅広い世代がいることが挙げられます。

ボランティア2年目となる今年度の講座では、ビオトープ管理の具体的な手法や、考え方について学ぶだけでなく、今後の管理活動について自分たちで考える機会を多くもちました。次年度からは4期生と合同での活動期間に入りますが、次年度の活動に向けても意欲的な態度が見られています。

表－31 公園管理ボランティア4期生参加状況

実施日	テーマ	参加者
4月11日	ガマの刈り取り、調整会準備	5
4月18日	ボランティア調整会	4
5月9日	カキツバタ周囲の刈り取り	5
5月16日	ハス田ガマの刈り取り	4
6月13日	ミソハギとハンゲショウ周囲の刈り取り	7
6月20日	ため池アサザの移植	2
7月12日	ため池のかい掘り体験補助	6
7月18日	ガマ穂の刈り取り、堆肥の切り返し	5
8月8日	ハスの花托の刈り取り	5
8月15日	アメリカセンダングサの抜き取り	3
9月12日	アサザ周囲の刈り取り	2
9月19日	ハスの刈り取り	4
10月10日	ハスの刈り取り	5
10月18日	泥んこハス掘り体験補助	4
	ハスの裁断	2
11月14日	ガマの刈り取り、ガマ穂の刈り取り	3
11月21日	浮島の管理、堆肥の切り返し	3
12月12日	ヤナギの剪定	6
12月12日	ボランティア勉強会	5
12月19日	堆肥の袋詰め、倉庫の片付け	3
1月9日	カマ研ぎ、新年懇親会	4
1月16日	ウキヤガラ刈り取り	4
2月13日	ガマの刈り取り、堆肥の袋詰め	3
2月20日	一年間の振り返り	2
3月12日	平成28年度計画作成	5
3月19日	平成28年度計画作成、堆肥の袋詰め	3
計26回		104

表－32 公園管理ボランティア5期生参加状況

実施日	テーマ	参加者
4月11日	講座「ビオトープ管理概論」	3
4月18日	ボランティア調整会	4
5月9日	講座「水質調査法」	4
5月15日	OJT「草本モニタリング調査」	1
5月16日	OJT「ハス田ガマの刈り取り」	2
6月13日	講座「抽水・沈水・浮葉植物の管理」	4
6月20日	OJT「ため池アサザの移植」	4
7月11日	講座「身近な外来種問題」	2
7月12日	ため池のかい掘り体験補助	3
7月18日	OJT「ガマ穂の刈り取り、堆肥の切り返し」	3
8月15日	OJT「アメリカセンダングサの抜き取り」	1
9月12日	講座「循環型の公園管理」	3
9月19日	ハスの刈り取り	2
10月10日	講座「足立の自然史をたどる」	1
10月18日	泥んこハス掘り体験補助	1
11月14日	講座「生物多様な公園づくり」	2
11月21日	OJT「浮島の管理、堆肥の切り返し」	2
12月12日	講座「危険予測・安全管理」	2
12月12日	ボランティア勉強会	1
12月19日	OJT「堆肥の袋詰め、倉庫の片付け」	2
1月9日	講座「新年懇親会」	2
1月16日	OJT「ウキヤガラ刈り取り」	2
2月13日	講座「合意形成と年間計画の作成」	2
2月20日	OJT「一年間の振り返り」	1
3月12日	講座「次年度の活動計画立案」	2
3月19日	OJT「平成28年度計画作成、堆肥の袋詰め」	2
計26回		58

③ 桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー

(1) ビオレンジャー活動について

桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー（以下ビオレンジャー）は、登録した子どもにスタンプカードを作成し、体系的な自然体験プログラムとなっているビオレンジャー活動を行うごとにスタンプがたまっていく仕組みです。ビオレンジャーにはレベルが設定されており、一定個数スタンプがたまると、記念品をもらえると共に、レンジャーレベルをアップさせるためのテストを受けることができます。これにより、公園の事業に対する子どもの参加意欲を高めるとともに、公園利用時のモラルを育成することができました。

今年度はビオレンジャー登録者数が 1,036 人になり、前年度と比較して 89 人増加しました。また、今年度は参加者の 1 名が最高レベルのプラチナレンジャーになりました。プラチナレンジャーの活動として、ザリガニ釣りを行った大人や子ども的人数、釣ったザリガニの数の取りまとめを行いました。また、前年度に引き続き団体利用で入園した小学生には、ビオレンジャー候補生チケットを配布し、次回入園時にビオレンジャーに登録するとスタンプが 1 個もらえる仕組みを実施しました。

次年度は新規レンジャー活動プログラムの作成と、ビオレンジャー登録者増のための声掛けをより積極的に実施していきます。

表-33 ビオレンジャー登録者数

レベル	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	昨年比
グリーン	405	574	652	765	861	949	88増
シルバー	16	35	52	50	63	59	4減
ゴールド	2	2	6	12	17	21	4増
プラチナ	2	3	4	6	6	7	1増
小計	425	614	714	833	947	1036	89増
候補生				686	1144	866	278減
総計	425	614	714	1519	2091	1902	189減

表-34 ビオレンジャー活動内容（一部）

	活動タイトル	活動内容
自然 しらべ	シジュウカラの巣箱しらべ	園内に設置しているシジュウカラの巣箱の使用状況を調査する。
	冬の生きものしらべ	園内で見られる冬越しの生き物を調査し、館内展示に反映する。
	アメリカザリガニしらべ	アメリカザリガニを採取し、オス・メスの匹数を調査する。
	ためいけのとりしらべ	ため池に来る冬鳥の種類、数をカウントし、記録する。
	ショウリョウバッタしらべ	ショウリョウバッタを採取し、大きさを測定し、館内展示に反映する。
解説員 の仕事 体験	水槽のそうじ体験	清流館内の生体展示用水槽を清掃する。
	飼育生物のエサ探し体験	館内で飼育している生物のエサとなる虫や草を採取する。
	パンフレット整理体験	館内で配布しているニュースレター等の配布物を整理する。
	クラフト道具整理体験	色鉛筆など、館内のクラフトで使用する道具の整理を行う。
	クラフト素材集め体験	プログラム等で利用するクラフトの材料となる木の実などを採集する。

④ 野外解説ボランティアの活動とその成果

昨年度から開始した区民協働型事業で、自然のあそび屋台での自然体験プログラムを実施してもらいました。本活動の特色は、これまでの区民協働型事業の多くが園内の環境管理に関わる活動だったのに対し、公園運営に関わる内容であることです。

2年目となる今年度の活動では、2回の講座と25回の自然のあそび屋台でのプログラムを実施しました。また解説員が担当した自然のあそび屋台や、特別企画展示連動企画の水辺のあそび屋台で、解説員が担当した水辺の生き物とりのサポートを行いました。

実施するプログラムについては、昨年度配布した「野外解説ボランティアプログラム集」から選んで実施する形を基本としましたが、ボランティアのオリジナルプログラムを実施することがほとんどでした。ボランティアがオリジナルのプログラムを実施する際には、必ず事前に解説計画書を作成し解説員がその内容を確認するようにしました。

今年度は5名で活動を開始しましたが、体調不良のため1人が活動を休止することとなりました。そのため4名という少人数での活動が多くなり、ボランティアへの負担が大きくなってしまいました。来年度はボランティアの募集を行い、ボランティアの負担の少ない形で実施していくことを検討します。

表-35 野外解説ボランティア活動実績

回数	月日	曜日	天気	実施したプログラム	活動人数	回数	月日	曜日	天気	実施したプログラム	活動人数
1	4月12日	日	晴れ	屋台「カモフラージュゲーム」サポート	1	24	10月11日	日	雨	屋台「自然物で壁掛け作り」サポート	1
2	4月26日	日	晴れ	屋台「春の虫をさがしてみよう！」	1	25	10月12日	月祝	晴れ	屋台「フィールドパターン」	2
3	4月29日	水祝	晴れ	屋台「生きものさがし」	2	26	10月25日	日	晴れ	屋台「生きものさがし」	2
4	5月4日	月祝	雨	屋台「テントウムシ観察」	2	27	11月3日	月祝	晴れ	屋台「クイズラリー」	2
5	5月5日	火祝	曇り	屋台「同じもの探し」サポート	1	28	11月15日	日	晴れ	屋台「落ち葉カード」	1
6	5月6日	水祝	晴れ	屋台「草花ビンゴ」	2	29	11月23日	月祝	雨	屋台「いろいろな葉っぱを集めよう」	3
7	5月24日	日	晴れ	屋台「同じもの探し」	2	30	12月23日	水祝	雨	打ち合わせ「今後の活動について」	4
8	6月14日	日	晴れ	屋台「見えているけど見えないものビンゴ」	2	31				屋台「木や草のタネムシを探そう」	4
9	6月28日	日	晴れ	講座「水辺のあそび屋台」	3	32	12月27日	日	晴れ	屋台「絵馬づくり」	1
10	7月5日	日	雨	屋台「植物スタンプ」	1	33	1月9日	土	晴れ	ボランティア新年懇親会	3
11	7月20日	月祝	晴れ	屋台「トンボ観察」	2	34	1月11日	月祝	晴れ	屋台「カマキリの卵マップを作ろう」	2
12	7月26日	日	晴れ	講座「水辺のあそび屋台」	1	35	1月17日	日	晴れ	屋台「土の中の生き物を探そう」	1
13				水辺のあそび屋台 サポート	2	36	1月31日	日	晴れ	屋台「木の芽を探そう」	2
14	8月2日	日	晴れ	水辺のあそび屋台 サポート	1	37	2月2日	火	晴れ	活動準備	1
15	8月9日	日	晴れ	水辺のあそび屋台 サポート	2	38	2月10日	土	晴れ	活動準備	1
16	8月15日	土	晴れ	講座「水辺のあそび屋台」	1	39	2月11日	日祝	晴れ	屋台「ため池の生き物観察」	2
17	8月16日	日	晴れ	水辺のあそび屋台 サポート	3	40	2月14日	日	晴れ	屋台「冬の自然を感じよう」	3
18	8月23日	日	晴れ	水辺のあそび屋台 サポート	2	41	3月13日	日	曇り	屋台「つくしをみつけよう」	2
19	8月30日	日	雨	水辺のあそび屋台 サポート	2	42	3月20日	日祝	晴れ	講座「1年間の振り返り」	4
20	9月20日	日	晴れ	屋台「自然の紋を作ろう」	1	43	3月23日	水	晴れ	活動準備	1
21	9月21日	月祝	晴れ	屋台「秋の色さがし」サポート	1	44	3月27日	日	晴れ	屋台「小さな魚の食べ物調査」	2
22	9月22日	火休	晴れ	屋台「葉っぱのこすりだし」	2					合計 44回	82
23	9月27日	日	晴れ	屋台「みつけてビンゴ」	1						

※解説員がメインでプログラムを実施し、ボランティアがサポートをした回は、サポートの表記があります。

⑤ ビオトープ公園サポーター制度

ビオトープ公園サポーター制度は、公園に関わりたい気持ちを持つ公園管理ボランティア修了者が自分の都合に合わせて参加できる制度です。今年度も地球環境フェアやしょうぶまつりなど、区内で行われる催し物での出張PRで行う公園紹介補助を行いました。ダンゴムシなどの生体展示やドングリけん玉などのクラフトの補助などを行いながらビオトープ公園の魅力の発信を行いました。また、ビオトープ公園の水辺の管理イベントにおいて、イベントの参加者の補助をしました。

表-36 ビオトープ公園サポーター参加状況

実施日	テーマ	参加者
5月31日	地球環境フェア	1
6月6日	しょうぶまつり	2
6月7日	しょうぶまつり	2
7月12日	ため池のかい掘り体験	5
8月2日	親子体験フェスティバル	3
9月19日	泥んこハス掘り体験説明会	2
10月18日	泥んこハス掘り体験	3
11月1日	桜花住区まつり	1
2月28日	梅まつり	1
計9回		20
平成26年度		
計5回		6

⑥ 提案型ボランティア制度

提案型ボランティア制度は、公園からの提案ではなく希望者からビオトープ公園の管理、運営に関わる新規の自主的活動を提案できる、公園管理ボランティア修了者向けの制度です。今年度は、にきの会及び新設したアクアドリームの会が活動を行ないました。

(1) にきの会

公園管理ボランティア2期生修了者の4名で立ち上げた「にきの会」が、3年目の活動を行いました。前年度と同様にサンクチュアリ内の通路整備と、通路周辺の実生の抜き取りの活動を行いました。また副産物を利用したエコスタックを管理し、そこで見られた生き物やエコスタックの様子を紹介する展示物を作り情報発信を行いました。天候不良などにより活動が実施できないときは、園内の樹名板の作成を行いました。

次年度も「にきの会」の活動は継続して実施します。

(2) アクアドリームの会

公園管理ボランティア3期生修了者の4名で今年度新たに立ち上げた「アクアドリームの会」グループが活動を行いました。活動内容は、ため池の池底に沈殿した落ち葉やヘドロの除去、溶存酸素の測定です。主に落ち葉やヘドロが多く堆積しているサンクチュアリ側を中心に作業を行いました。取り除いた落ち葉などの副産物はサンクチュアリへ運搬しました。7月はカルガモの営巣への配慮とデング熱の影響を考慮し、ため池の浮き島とサンクチュアリ側を避けた場所で活動を行いました。次年度も「アクアドリームの会」の活動は継続して実施します。

表-37 提案型ボランティア「にきの会」参加状況

実施日	テーマ	参加者
4月18日	ボランティア調整会	3
4月23日	サンクチュアリ通路の整備	3
5月28日	サンクチュアリ通路の整備 エコスタックの観察、展示	4
6月18日	サンクチュアリ通路の整備	4
8月20日	園内樹名板の作成	2
9月17日	園内樹名板の作成	2
10月15日	サンクチュアリ通路の整備	3
11月5日	エコスタックの観察、展示	3
12月17日	サンクチュアリ通路の整備	3
1月9日	新年懇親会	1
1月21日	サンクチュアリ通路の整備	3
2月3日	来年度の打ち合わせ	4
2月4日	エコスタックの観察、展示	3
2月18日	平成28年度活動内容検討	3
3月17日	サンクチュアリ通路の整備	3
計15回		44
平成26年度		
計14回		46

表-38 提案型ボランティア「アクアドリームの会」参加状況

実施日	テーマ	参加者
4月18日	ボランティア調整会	3
4月25日	27年度計画書の確認・現場確認	4
5月2日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	4
6月6日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	4
7月4日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	4
8月1日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	2
9月26日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	3
10月3日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	2
11月28日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	3
12月5日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	3
1月9日	新年懇親会	2
1月23日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	3
2月6日	今年度の振り返り、来年度の活動計画書作成	4
2月27日	来年度の活動計画書作成	4
3月5日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	3
3月26日	ため池の落ち葉やヘドロの除去	4
計16回		52

⑦ 飛び込み型環境管理ボランティア

ザリガニ釣り制度は、園内の水辺で増えすぎた外来種のアメリカザリガニの数を減らすと共に、公園利用者の協力を得るための区民協働型事業です。参加希望者には、解説員カウンターで受付をしてもらい、釣り竿、バケツ、活動用の帽子を貸し出します。なお、初めて釣りをされる参加者にはザリガニクイズを受けていただき、アメリカザリガニの生態と外来種を減らす理由などを伝えました。とれたアメリカザリガニは持ち帰らずに、全て解説員に引き渡してもらいます。その後、アメリカザリガニは足立区生物園へ搬送し、大型魚やカメなどのエサとして利用してもらいました。

平成27年度の成果として、通年で3,949人が参加し、3,034匹を駆除しました。平成22年度以降、アメリカザリガニの捕獲数は毎年減少傾向にあり、ザリガニ釣りによる個体数減少が示唆されています。平成27年度では、昨年に比べ捕獲数は増加していますが、これは参加者増加に伴い捕獲数が増えたことが原因だと考えられます（図-9）。

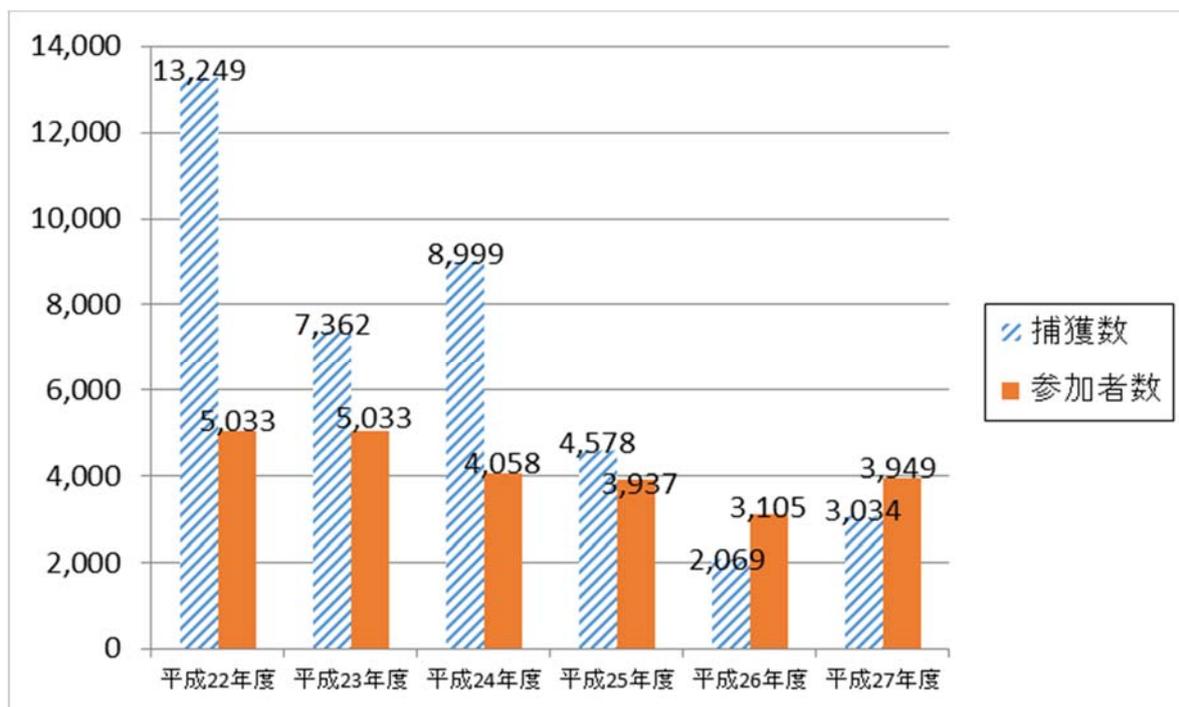


図-9 ザリガニ釣りへの参加者とザリガニ捕獲数の経年変化

7) 広報活動および情報収集

「公園の認知度の低さ」が課題の一つである当公園では、より多くの区民に公園での活動を知っていただき、また入園のきっかけとするために、広報活動が重要となります。

ニュースレターなど印刷物による主に区内への情報発信、園外の様々なイベントでのPR活動、ホームページによる広域への情報発信、新聞・雑誌・TVなどメディアへの掲載につながる広報活動を行いました。

① 新聞・雑誌・TV・HPなどメディアへの掲載

公園の認知度を高めるために、新聞、雑誌、TV、HPなどのメディアで取り上げてもらうことに重点を置いた活動を行いました。地域情報誌などにはイベント情報告知の掲載をしていただきました。また、昨年度に引き続き、足立区公式フェイスブックに毎月のイベント情報や自然情報を掲載していただきました（表-39）。

今年度は報道広報課への情報発信が手薄になり、昨年度と比べると広域メディアに取り上げられる機会が少なくなっていました。今後はより一層、報道広報課や地域メディアとの連携をはかり、地域・広域メディア共に取り上げていただけるよう、効果的なプレスリリース文の作成などを積極的に行います。

表-39 新聞・雑誌・TV・HP などへの掲載一覧

報道日	報道機関名	内容
毎月10日、25日	あだち広報	イベント案内
毎月1日	花畑地域学習センター「フレンズ」	イベント案内
毎月	足立区公式フェイスブック ビュー坊のあだちなび	イベント案内
5月25日	伊興地域学習センター「よいしょ」	オオガハス情報
5月	パーク24	公園紹介
6月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント紹介「身近な外来種を食べよう」、「五感で楽しむオオガハス」
6月10日	あだち広報特集記事	ハス田の見どころ紹介
6月19日	タウン情報誌「ぱど」	イベント案内「五感で楽しむオオガハス」
6月	キンダーブック フェイスブック	6月イベント案内
7月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント案内
7月	花畑第一小学校広報紙	公園紹介
9月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント紹介「手作り浄化キットで水の浄化実験」、「ハスの花托でけん玉作り」
12月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント紹介「自然素材でミニクリスマスリースづくり」、「木の実でつくろう干支の置物」
1月5日	足立朝日 情報スクランブル	1月イベント案内
2月5日	足立朝日 情報スクランブル	2月イベント案内
3月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント案内「ツクシのブローチづくり」
3月8日	環境情報案内・交流サイト EICネット	イベント案内「ピオトーブ講座」

② ホームページ

今年度は8月にホームページのリニューアルを実施しました。ホームページへの掲載情報を整理し、写真を大きく掲載することで、目にとまりやすいレイアウトとしました。更新頻度は週に1回以上とし、いつ見ても新しい情報が得られるようにしました。具体的には「イベント情報」や「ボランティア活動報告」を毎月更新し、自然の見どころを紹介する「桑袋ナウ」を週1回更新しました。それ以外にも、トップページでは、特にその時期の自然のみどころとなるものや、HP閲覧者の入園につながりそうな情報を不定期に掲載しました。また11月に新たにフェイスブックページを開設し、その日の公園の自然情報やイベントの告知、実施報告を週に3回程度掲載しました。

スマートフォンでのインターネット利用者の増加などもあり、HPでの情報発信の重要性は一層高まると思われます。来年度は特に冬季に力を入れて魅力的な自然情報やイベント情報などを発信していくとともに、ツイッターなど新たなSNSでの情報発信について検討します。

表-40 HPアクセス数推移

平成27年度 桑袋ビオトープ公園ホームページ アクセス分析													
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
セッション ^{※1}					1,326	1,237	1,177	1,308	1,046	846	694	912	8,546
閲覧者数 ^{※2}					852	804	746	881	733	573	463	569	5,621
ページビュー ^{※3}					5,557	4,306	4,280	4,780	2,861	2,538	2,532	2,804	29,658
ページ/セッション ^{※4}					4.19	3.48	3.64	3.65	2.74	3.00	3.65	3.07	-
平均セッション時間 ^{※5}					0:02:46	0:02:00	0:02:11	0:02:04	0:01:46	0:02:03	0:02:11	0:01:56	-
直帰率 ^{※6}					48.72%	48.83%	47.24%	57.72%	59.85%	56.56%	45.10%	46.93%	-
新規セッション率 ^{※7}					63.12%	60.15%	56.58%	61.62%	62.52%	59.46%	55.33%	53.84%	-
※8月よりアクセス解析方法が変更になったため、4月～7月のアクセス数は集計不能。													
■用語解説■													
※1 セッション	1人のユーザーがサイトを閲覧した回数です。同じ日に同じユーザーが2度サイトを閲覧した場合は、2セッションとなります。												
※2 閲覧者数	サイトを訪問したユーザー数の総計です。セッションとは異なり、同じ日に同じユーザーが2度サイトを閲覧した場合でも、ユーザー数は1となります。												
※3 ページビュー	全てのユーザーが閲覧したページの合計数です。同じユーザーが同じページを複数回閲覧した場合でも集計されます。												
※4 ページ/セッション	ユーザーが一回の訪問で、何ページを見たかを表す数字です。多いほど1人のユーザーが色々なページを見ていることが分かります。												
※5 平均セッション時間	ユーザーが1回の訪問につき、何分間サイトを見ていたかという滞在時間です。												
※6 直帰率	1ページを閲覧しただけで、他のサイトに移ってしまったユーザーの割合です。この数字が高いほどサイトへの関心が低い傾向にあります。												
※7 新規セッション率	全ユーザーの中で、初めてサイトを閲覧したユーザーの割合です。この数字が低いほど、リピーターが多い事が分かります。												

③ 園外でのPR活動

今年度は、地球環境フェア（足立区庁舎）、しょうぶまつり（しょうぶ沼公園）、親子体験フェスティバル（花畑地域学習センター）、あだち自然体験デー（新田わくわく♡水辺広場）、桜花住区まつり（桜花住区センター）、ふれあいまつり（花畑地域学習センター）、梅まつり（大谷田公園）に出展し、公園のPR活動を計10回実施しました。

パネルによる園内の自然紹介やイベント紹介、ミニプログラムとして草花ステンシルなどを行いました。公園の認知度は高まってきている印象でしたが、入園したことがないという声も多く聞かれました。

今後も積極的に園外でのPR活動を行い、区民の方々に情報発信を行いたいと考えています。

表-41 出張PR先一覧

実施日	出張PR先	場所
5月30日、31日	地球環境フェア	足立区庁舎
6月6日、7日	しょうぶまつり	しょうぶ沼公園
8月2日	親子体験フェスティバル	花畑地域学習センター
9月23日	あだち自然体験デー	新田わくわく♡水辺広場
11月1日	桜花住区まつり	桜花住区センター
11月7日、8日	ふれあいまつり	花畑地域学習センター
2月28日	梅まつり	大谷田公園

出展状況の事例紹介（一部）

しょうぶまつり（しょうぶ沼公園）

実施日：6月6日（土）、7日（日）

園内の生き物情報のパネルやミミズなどの土壌生物を展示し、公園紹介を行いました。また公園サポーターの方々にも手伝っていただき、草花ステンシルのミニプログラムを実施しました。園内のハス田でオオガハスが見られることに興味を示す方が多く、「今度遊びに行きます」という声が多く聞かれました。また名前は知っているけれど場所が分からないという方も多く、公園を知ってもらう良い機会となりました。

桜花住区まつり（桜花住区センター）

実施日：11月1日（日）

実寸大のカモの模型やイベント情報を掲載したパネルを展示し、公園紹介を行いました。また公園サポーターの方にも手伝っていただき、ドングリゴマやドングリけん玉を作るミニプログラムを実施しました。桑袋ビオトープ公園に一度も入園したことのない方が多く、「今度は公園に遊びに行きたい」、「イベントに参加してみたい」という声が聞かれました。

④ 区庁舎アトリウムでのポスター掲示

区庁舎アトリウムの入口掲示板に B1 サイズのポスターの掲示を行いました。今年度は「野草のカードケースづくり」「特別企画展示 みんなで作るビオトープ生き物写真コレクション」「ビオトープ講座」と、年間で3回掲示しました。また A3 サイズで「公園管理ボランティア6期生募集」のポスター掲示を行いました。

区庁舎アトリウムでのポスター掲示は、多くの区民の方の目に触れるきっかけとなるため、集客に大きな効果があります。今後もこうした公共施設へのポスター掲示が可能な検討していきます。

⑤ 印刷物による情報発信（ニュースレター、ポスター、チラシ）

前年度から引き続き、ニュースレターを発行しイベント情報などを掲載しました。近隣小学校3校へは全児童へ配布したほか、区内の全住区センター、地域学習センターなどの各施設、隣接する草加市や八潮市の公共施設へ配布を行いました。

内容は A4 表裏フルカラーで、表面にはイベントの実施情報、裏面には公園の見どころ紹介などを掲載しました。読みやすい紙面づくりを心掛け、写真やイラストなどを多用しました。「学校で配られたよ」「次号の発行はいつ頃ですか？」など、子どもから大人まで楽しみにしている様子が伺えました。

また発展型イベントを中心にポスター・チラシを作成し、区庁舎アトリウムなどに掲示、配布を行いました。ニュースレターは月 5,000 部を発行しており、より多くの方が目にする場所に掲示、配布することは、大きな広報効果があると考えています。

表-42 ニュースレター発行回数と部数

号数	発行日		発行部数
NL5月号	2015年	4月15日	5,000部
NL6月号	2015年	5月15日	5,000部
NL7月号	2015年	6月12日	5,000部
NL8月号	2015年	7月9日	5,000部
NL9月号	2015年	8月16日	5,000部
NL10月号	2015年	9月13日	5,000部
NL11月号	2015年	10月14日	5,000部
NL12月号	2015年	11月12日	5,000部
NL1月号	2015年	12月13日	5,000部
NL2月号	2016年	1月19日	5,000部
NL3月号	2016年	2月14日	5,000部
NL4月号	2016年	3月13日	5,000部
計12回			60,000部

表-43 ニュースレター掲載内容

掲載項目		内容
表	イベント情報	発行月の発展型イベント、導入型イベント、自然のあそび屋台の実施内容を掲載。
	4コママンガ	公園に関係する内容で、楽しそうな雰囲気を出すよう表面に掲載。
裏	公園のみどころ紹介	発行月に見られるであろう、公園のとおきの自然情報を掲載。
	ビオトープ生き物図鑑	発行月に見られるであろう生き物を1種掲載。
	ボランティア日記	公園管理ボランティアや提案型ボランティアの活動報告を掲載。

⑥ 地域、区内関連施設との連携事業

今年度は前年に続いてアメリカザリガニの駆除について足立区生物園との連携を行いました。具体的には、園内で捕獲したアメリカザリガニを生物園に運び、飼育している生物のエサとして利用してもらいました。

大学への協力として、卒業研究に使用するウシガエルの提供や、アメリカザリガニの提供を行いました。また、今年度区内大学に教員候補生による保育園を対象にしたプログラム実習を提案、実施を検討しましたが授業日時の関係で実施できませんでした。

他施設との連携事業としては、生物園の展示との連携を行いました。生物園で昆虫採集の展示を見た後、当公園の特別企画展示連動企画の生き物捕りプログラムに参加してもらおうという、生き物捕り体験ができるフィールドを提供しました。生き物捕りをきっかけに初入园された方もおり、当公園の周知にもつながりました。

今後お互いにとって効果の高い事業を行えるよう、地域団体や関連施設との連携を検討していきます。

⑦ 入館者モニタリング（入館者アンケート結果）

館内に自由記入形式のアンケートを設置し、随時入館者が記入できるようにしました。1年間でアンケートとして回収したものの大半は当公園とあやせ川清流館を評価する声でした。特に多かったのは、「楽しかった」「また来たい」という声でした。具体的には「生き物とりが楽しかった」「クラフトが楽しかった」というような、生き物や自然と触れ合った体験に対する声でした。また解説員から話しが聞けたことに対する好意的な意見もあり、解説員が常駐していることが入館者の満足度につながっていることが伺えました。これらのことから、当公園には自然があるだけでなく、その自然を使った自然体験のできる場として広く認知されてきていることが分かりました。

今後も自由形式のアンケートを継続し、区民のニーズを把握しながらよりよい公園作りにつなげていきます。

○5月回収分

- ・楽しかった。また来るよ。
- ・ぬり絵がいっぱいあり、本や輪投げが楽しかったです。ぬり絵、最高。
- ・双眼鏡でいろいろな鳥を見ました。また行きたいです。
- ・ザリガニ釣りが楽しかった。

○6月回収分

- ・いろいろな体験やザリガニを釣るという普段できないことができて、おもしろかった。
- ・とても整備され案内の人も良く説明され、本当にありがとうございました。また見学に来たいと思います。
- ・楽しかった。
- ・本日久しぶりに利用させていただきました。
- ・いっぱい色々なことができて、楽しいです。
- ・楽しい！
- ・桑袋にあるけど、とても楽しいのでいっぱい来たいです。
- ・久しぶりにアオダイショウに対面しました。この静かな動きに心が洗われた感じです。ジグソーパズルで、シモツケの花にてこずりましたが、楽しめるものですね。

○7月回収分

- ・一緒に虫探しをしてくれて、ありがとうございます。
- ・スゴロクが楽しかったです。
- ・ショウリョウバッタが見つけられて良かった。

○8月回収分

- ・ビオトープにはいろいろな虫がいて、どんな虫がいるか調べられるので、ビオトープはすごく楽しかった。また行きたい。
- ・カニがいた。
- ・虫探시를いつも楽しんでいます。
- ・楽しかった。

- ・バッタをつかまえたよ。楽しかったです。今日、夢にでてね。
- ・子どもがスタッフの方々と虫探しを楽しんでいます。詳しい知識をもったスタッフの方々に、勉強になります。
- ・虫がいっぱいいて、とても自然があるビオトープ公園でした。
- ・ザリガニとバッタをつかまえられて、うれしかったです。
- ・ザリガニがつれてよかったです。
- ・ザリガニがいっぱいとれて、うれしかったです。

○9月回収分

- ・いろいろできるから楽しい。
- ・楽しかったです。
- ・ザリガニ1匹つれました。嬉しかったです。
- ・ザリガニつりが楽しかったです。

○10月回収分

- ・いっぱい釣れてよかった。ザリガニの大きいのもとれた。
- ・虫がたくさんいるところでした。
- ・ドングリ探しが楽しいです。
- ・ドングリクラフトをしました。楽しかったです。
- ・カマキリを探して楽しいです。(5歳男)
- ・ザリガニのことがよく分かりました。ザリガニクイズが楽しかったです。また来たいなと思いました。

○11月回収分

- ・ドングリ拾いが楽しいです。

○12月回収分

- ・楽しかったです。また来ます。
- ・ヘビがこわかった。つりが楽しかった。

○1月回収分

- ・いつもスタッフの方々と虫探し、ドングリでの製作を楽しんでいます。自然・人と交流することができて、子どもが大好きな公園です。
- ・今日は、工作やいろいろなことをして楽しかったです。
- ・わかりやすくていねいに、楽しんでできました。
- ・いろんなものが作れて、楽しかったです。また来ます。
- ・いろいろ作れてとても楽しかったです。また来ます！！

○2月回収分

- ・楽しかったです。

- ・もっと遊びたかったし、おかしも食べたかった。
- ・いろいろ作れて楽しいです。また来ます。
- ・今日はとても楽しかったです。

○3月回収分

- ・今日はビオトープ公園でクイズラリーで間違えました。楽しかったです。
- ・たのしかった。ありがとう。
- ・すばらしい。自然をたくさん感じる事ができた。
- ・楽しかったです。
- ・ぜんぶ楽しかった。
- ・自然がいっぱいで、とても楽しかったです。